

18-823

嶋崎赤太郎 閱

福井直秋 編

# 初等和聲學

合資  
會社  
共益商社  
樂器店藏版

明治  
44 20  
丙午



## 緒言

近時我が樂壇は駸々として隆昌の域に入り技術の進歩は吾人の以て快とする所なりと雖も樂理其のものゝ研究に至りては牛歩遅々として相伴ふものなく之に關する著書の如きも亦寥々として晨星の如し殊に和聲學に於ては未だ邦人の著書一もあることを聞かずこれ予の不敏を顧みず敢てこの書を公にせし所以なり

本書は固より和聲學の初歩たるのみされど幸に之を以て一階梯となし一舟槎となし依て斯學の堂に上り室に入り江に浮び海に出づるの少補たることを得ば予の本懷之に



過ぎざるなり

本書の成れるは一に恩師島崎赤太郎先生の賜なり先生の懇篤なる指導と周密なる校訂の勞とを執られたるは予の感銘指く能はざる所なり

明治四十一年四月

福井直秋

例言

一、本書は和聲學の大要を知らしめんがために著したるものにして勉めて平易簡明ならんことを期せり

一、本書中の練習題は總て著者の案に成り其の各部門に最も適切なるべきものゝみを載せたりされど其數の少きは著者の甚だ遺憾とする所なれば學習者は其必要に應じリヒテル、ステーター、ブスレル、プラウト、エメリー氏等の諸書に就き之を



索められんことを切望す

一、著者は他日本書の改訂増補を怠らざるべく尙  
進んで中等和聲學を公にせんことを期す

著者識

# 初等和聲學目次

## 緒論

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| 第一章 | 音程    | 一 |
| 第一節 | 音程の意義 | 一 |
| 第二節 | 音程の名稱 | 二 |
| 第三節 | 同     | 二 |
| 第四節 | 同     | 三 |
| 第五節 | 音程の種類 | 四 |
| 第六節 | 同     | 四 |
| 第七節 | 同     | 五 |
| 第八節 | 同     | 五 |
| 第九節 | 音程の轉回 | 六 |



第一〇節 音程の轉回……………七

第一一節 同……………七

**第二章 音階**……………八

第一二節 音階の意義……………八

第一三節 音階の種類……………九

第一四節 同……………九

第一五節 同……………一

第一六節 音階の各度の名稱……………一

**本論**

**第一章 普通和絃**……………一三

第一節 和絃の意義……………一三

第二節 三和音の意義……………一三

第三節 三和音の種類……………一三

第四節 同……………一五

第五節 普通和絃……………一六

第六節 同……………一六

**第二章 四聲音部**……………一七

第七節 四聲音部の構成……………一七

第八節 四聲音部の名稱……………一八

第九節 三和音の位置……………一九

第一〇節 密集和聲及び開離和聲……………一九

**第三章 聲音部の進行**……………二〇

第一一節 進行の種類……………二〇

第一二節 同……………二二

**第四章 和絃の連合**……………二三

第一三節 和絃連合の規則……………二三

第一四節 同……………二九



第一五節 和絃連合の規則……………三四

**第五章 普通和絃の轉回**……………三七

第一六節 轉回の意義及び種類……………三七

第一七節 六の和絃の連合規則……………三九

**第六章 七の和絃**……………四五

第一八節 七の和絃及び其の解決……………四五

第一九節 七の和絃の規則……………四五

**第七章 七の屬和絃**……………四七

第二〇節 七の屬和絃……………四七

第二一節 同……………四八

第二二節 七の屬和絃の解決……………四八

第二三節 同……………五二

**第八章 七の屬和絃の轉回**……………五七

第二四節 轉回の種類……………五七

第二五節 轉回和絃の解決……………五九

第二六節 同……………六〇

**第九章 從屬七の和絃**……………六四

第二七節 從屬七の和絃……………六四

第二八節 從屬七の和絃の解決……………六六

**第十章 從屬七の和絃**……………六八

第二九節 轉回の種類及び其の解決……………六八

**第十一章 減七の和絃及び七の導音和絃**……………六九

第三〇節 減七の和絃及び其の解決……………六九

第三一節 七の導音和絃……………七〇

**第十二章 七の和絃の連續**……………七〇

第三二節 七の和絃の連續及び其の解決……………七一

**第十三章 第七音の破格進行**……………七二

第三三節 第七音の破格進行の規則……………七二



**第十四章** 九の屬和絃……………七四

第三四節 長九の和絃及び短九の和絃……………七四

第三五節 十一及び十三の和絃……………七四

**第十五章** 反覆進行……………七七

第三六節 反覆進行及び其の種類……………七八

第三七節 反覆進行の場合に於ける注意……………七八

**第十六章** 終止法……………七九

第三八節 終止法及び其の種類……………七九

**第十七章** 増和絃及びニーポリタン六音の和絃八四

第三九節 増六増六五及び増六四三の和絃……………八四

第四〇節 ニーポリタン六音の和絃……………八六

**第十八章** 轉調……………八九

第四一節 轉調……………八九

第四二節 轉調の種類及び方法……………八九

第四三節 同……………九〇

第四四節 同……………九二

第四五節 同……………九三

第四六節 同……………九四

第四七節 同……………九四

**第十九章** 繋留音及び怠音……………九七

第四八節 繋留音……………九七

第四九節 同……………九七

第五〇節 同……………九八

第五一節 怠音……………九九

第五二節 二重繋留……………一〇〇

**第二十章** 經過音及び補助音……………一〇〇

第五三節 經過音及び補助音……………一〇〇

第五四節 同……………一〇一



|                |     |
|----------------|-----|
| 第五五節 經過音及び補助音  | 一〇一 |
| 第二十一章 重複八音     | 一〇二 |
| 第五六節 重複八音      | 一〇二 |
| 第二十二章 和絃の分割    | 一〇四 |
| 第五七節 和絃の分割     | 一〇四 |
| 第二十三章 低止音及び不動音 | 一〇五 |
| 第五八節 低止音及び不動音  | 一〇五 |
| 第五九節 同         | 一〇七 |
| 第二十四章 旋律の調和    | 一〇七 |
| 第六〇節 旋律の調和     | 一〇七 |

附録

樂話索引

初等和聲學

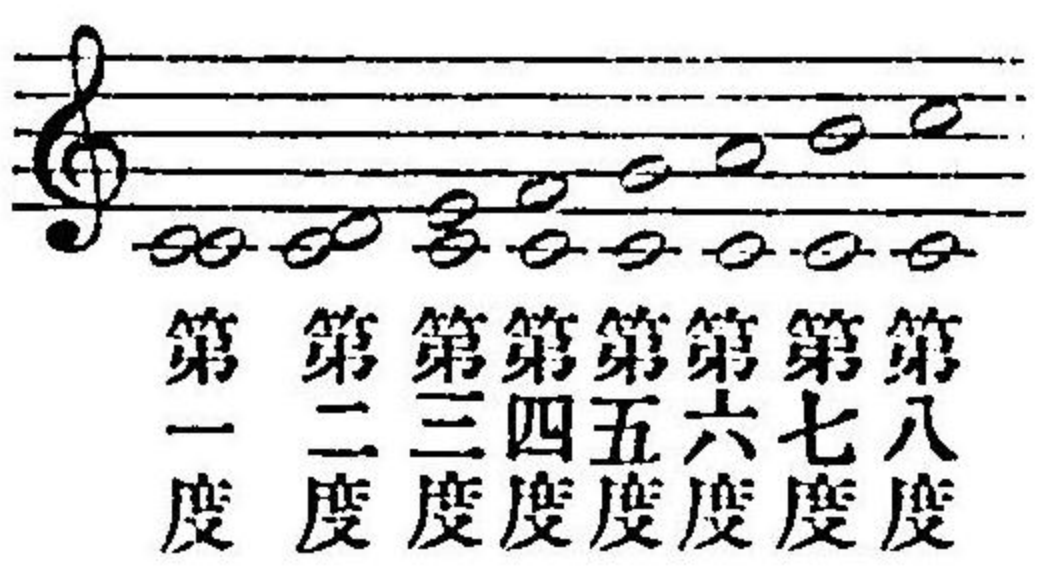
島崎赤太郎 閱  
福井直秋 著

緒論

第一章 音程

- 一、音程とは或る音と或る他の音との高度の差異即ち二音間の距離をいふ
- 二、音程は其二音間に含有する度数によりて之を第一度、第二度等と呼ぶものなり次に示すが如し





第一度 第二度 第三度 第四度 第五度 第六度 第七度 第八度



第八度 第九度 第十度

三、九度の音程は之を數ふるに其八度より數へて第二度といひ十度は之を第三度といふ斯くて十五度に至れば第八度となり十六度に至りて更に再び第二度となるものなり之れ音階の第八度は第一度の、第九度は第二度の再現し

たるものなるを以てなり

四、音程は其二音間に含有する半音、全音の數の多寡に依

Musical staff with interval examples and labels: 減四度二全音を有す, 増四度三全音を有す, 完全四度二全音半を有す, 減三度一全音を有す, 短三度一全音半を有す, 長三度二全音を有す, 増二度一全音半を有す, 短二度一全音を有す, 長二度一全音を有す, 増一度一全音半を有す, 完全一度同度にして同音なり

Musical staff with interval examples and labels: 短九度六全音半を有す, 長九度七全音を有す, 減八度五全音半を有す, 完全八度六全音を有す, 減七度四全音半を有す, 短七度五全音を有す, 長七度五全音半を有す, 増六度五全音半を有す, 短六度四全音を有す, 長六度四全音半を有す, 減五度三全音を有す, 増五度四全音を有す, 完全五度三全音半を有す

りて完全、長、短、増、減、(或は不完、全ともいふ)の五種に分たる、即ち上表の如し

注意 増三度、増七度及び増九度は和聲的音程になし、而して増八



度は増一度と見做すべきものなり

五、音程の二音を同時に響かしむる時に於て其調和佳良にして吾人の聴覺に快感を與ふるものと調和不良にして快感を與へざるものとあり、前者を協和音程といひ後者を不協和音程といふ

完全協和音程

完全一度      完全四度      完全五度      完全八度

不完全協和音程

長三度      短三度      長六度      短六度

六、協和音程には完全なるものと不完全なるものとありて完全協和音程、不完全協和音程の二に分たれ、完全一度、完全四度、同五

度及び同八度の四種は前者に屬し長短の三度及び六度の四種は後者に屬するものなり  
七、前項に擧げたる八種の音程を除けば他は皆悉く不協和音程に屬す

不協和音程

増一度      長二度      短二度      増二度

増四度      減四度      増五度      減五度

長七度      短七度      減八度      長九度      短九度

八、左に總ての音程を表示すべし



音程

協和音程

完全協和音程

完全一度 完全四度  
完全五度 完全八度

不完全協和音程

長三度 短三度  
長六度 短六度

不協和音程

增一度 長二度 短二度 增二度 減三度  
增四度 減四度 增五度 減五度 增六度  
長七度 短七度 減七度 減八度 長九度 短九度

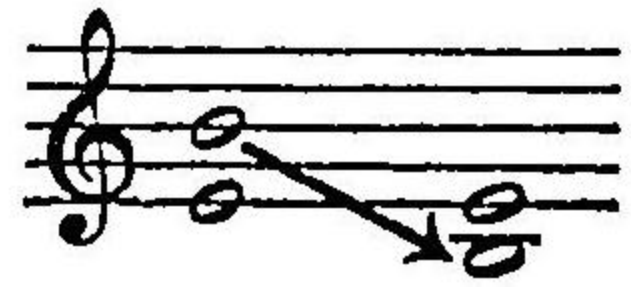
九、音程に於ける上の音を一八音下に移し下の音を一八

音上に移すことを

名けて音程の轉回

といふ

轉回音程



或は

轉回音程



等

普通音程

といふ

〇

一〇、音程の轉回によりて一度は八度となり二度は七度

となる等のことは上表に示すが如し

而して

○ a. 長音程の轉回は短音程

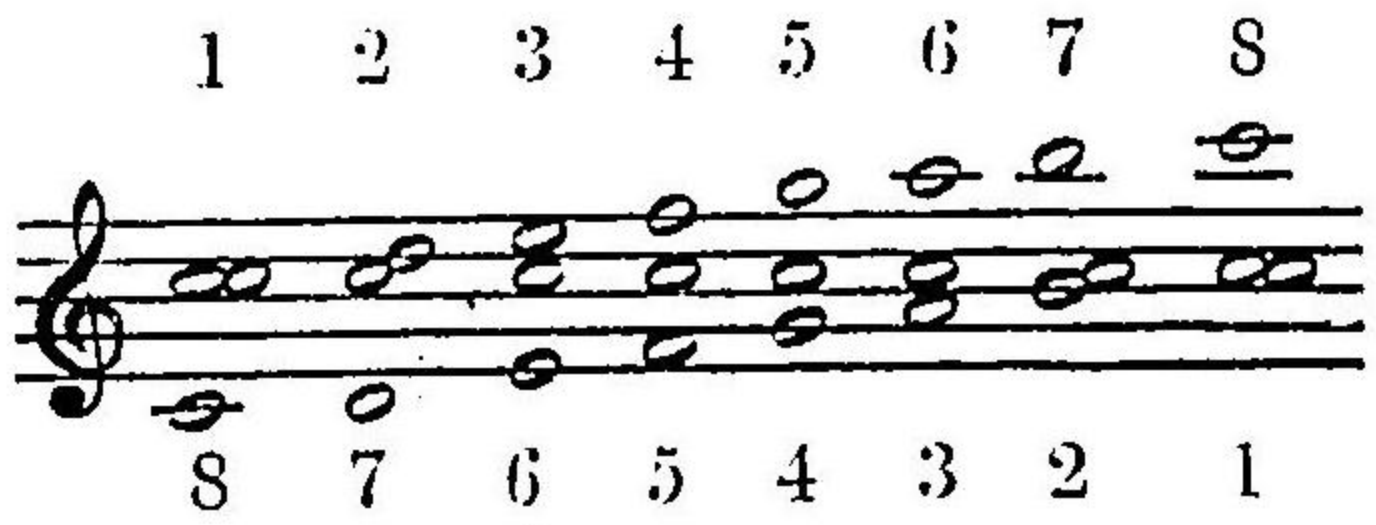
b. 短音程の轉回は長音程

c. 増音程の轉回は減音程

d. 減音程の轉回は増音程となり

e. 完全音程の轉回は同じく完全音程とな

るものなり



一一、音程の轉回の結果はりの數より本來の音程の數を

減ずることによりて容易に之を知ることを得べし



本來の音程 1 2 3 4 5 6 7 8  
 轉回せる音程 8 7 6 5 4 3 2 1

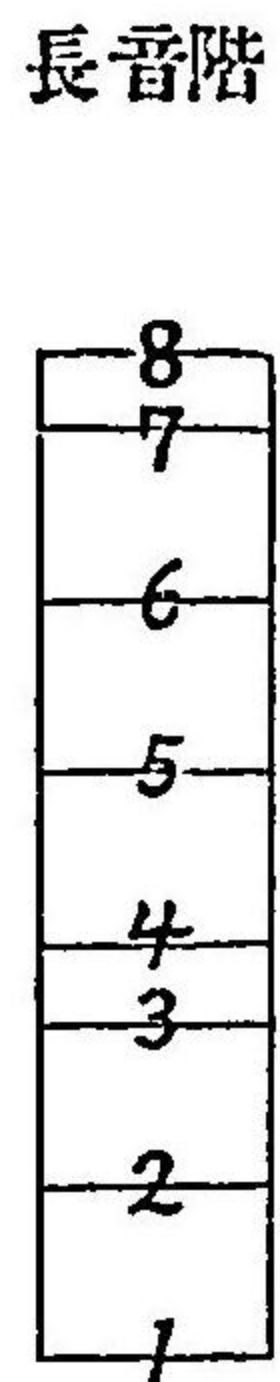
例之ば完全五度の轉回は9より5を減じたる數  
 4 卽ち完全四度(前項に示すことにより)となり長二  
 度の轉回はりより2を減じたる數7 卽ち短七度  
(前項に示すことにより)となるが如し上に示せる數  
 字の横列は一層簡明に轉回の度數を知らしむる  
 ものなり

### 第二章 音階

一二、或る一音を基礎とし一定の法則に依り秩序的に順  
 次整列し以て上方同名の音に至る八個音を稱して音階  
 といふ

一三、音階には全音階、半音階の二種あり、全音階は更に分  
 れて長音階短音階の二となり、短音階は更に分れて本然  
 的、旋律的和聲的の三となる  
 一四、全音階は多數の全音と少數の半音とより成る八個  
 音の一系列なり

1 長音階は第三音と第四音、第七音と第八音との間  
 に半音を有し他は總て  
 全音より成る八個音の



一系列なり

2 短音階を代表するものは

a. 本然的短音階にして第二音と第三音、第五音と



短音階

| 和聲的     | 旋律的     | 本然的    |
|---------|---------|--------|
| 8<br>#7 | 8<br>#7 | 8<br>7 |
| 6<br>5  | #6<br>5 | 6<br>5 |
| 4       | 4       | 4      |
| 3       | 3       | 3      |
| 2       | 2       | 2      |
| 1       | 1       | 1      |

上行      下行

第六音との間に半音を有し他は總て全音より成る八個音の列なり

b. 旋律的短音階は上行に於て本然的短音階の第六、第七の二音を半音程上昇せしめ下行に於て本然的短音階と同形をなせるものにして和聲學上には之を使用せざるものとす

c. 和聲的短音階は其名の如く専ら和聲上に使用せらるゝものにして本然的短音階の第七音を半

音程上昇せしめたるものなり

附言、短音階は其關係長音階の調子記號に依りて譜表上に表はさるゝものなり

一五、半音階は半音程のみの連續にして一八音内に八個の基礎音と五個の變化せる音とを含有する十三個音の列なり

一六、音階の各度の名稱は次の如し

- 第一度を 主和絃
- 第二度を 上主和絃
- 第三度を 中和絃
- 第四度を 次屬和絃



第五度を 屬和絃

第六度を 上屬和絃若くは次中和絃

第七度を 導音といふ

和音

# 本論

## 第一章 普通和絃 (三和音)

一、或る異りたる三音若くは三音以上を同時に發するときは茲に和絃を構成するものにして和絃は樂曲を作成する基礎となるものなり

二、或る一音を低音として之に其第三音及び第五音を聯合したる和絃を三和音といひ其低音を稱して根音或は基礎音といふ



三、長短兩音階の各音を根音とし之に其各の第三音及び



第五音を聯合して三和音を構成するときには總て十四個

長音階に於ける總三和音

C: I 長 II 短 III 短 IV 長 V 長 VI 短 VII 減

短音階に於ける總三和音

a: I 短 II 減 III+ 増 IV 短 V 長 VI 長 VII 減

を生じ、十四個は長三和音、短三和音、増三和音、減三和音の四種に分たる、即ち低音と三音との間に長三度を有し、低音と五音との間に完全五度を有するものを長三和音、低音と三音との間に短三度を有し、低音と五音との間に完全五度を有するものを短三和音、長三度と増五度とを有するものを増三和音、短三度と減五度とを有するものを減三和音といふ而して長三和音より成る和絃を長和絃、短より成るものを短和絃、増より成るものを増和絃、減より成るものを減和絃と稱す

減三和音といふ而して長三和音より成る和絃を長和絃、短より成るものを短和絃、増より成るものを増和絃、減より成るものを減和絃と稱す

附言 低音の下に記載したる羅馬數字は和絃を構成せる音階の度及び和絃の種類を示すものにして横線を有する數字は長和絃、横線を有せざる數字は短和絃、横線を有する數字の右肩に十を附したるものは増和絃、横線を有せざる數字の右肩に圈點を附したるものは減和絃なることを意味するなり而して假名の大字は長調、小字は短調たることを表はすものとす

四、三和音の分類を表に依りて示さば當に左の如くなるべし



|            |           |              |            |
|------------|-----------|--------------|------------|
| 長三和音 (長和絃) | 長三度、完全五度、 | 長調 I. IV. V. | 短調 V. VI.  |
| 短三和音 (短和絃) | 短三度、完全五度、 | " " III. VI. | " I. IV.   |
| 増三和音 (増和絃) | 長三度、増五度、  | " "          | " III.+    |
| 減三和音 (減和絃) | 短三度、減五度、  | " VII.       | " II. VII. |

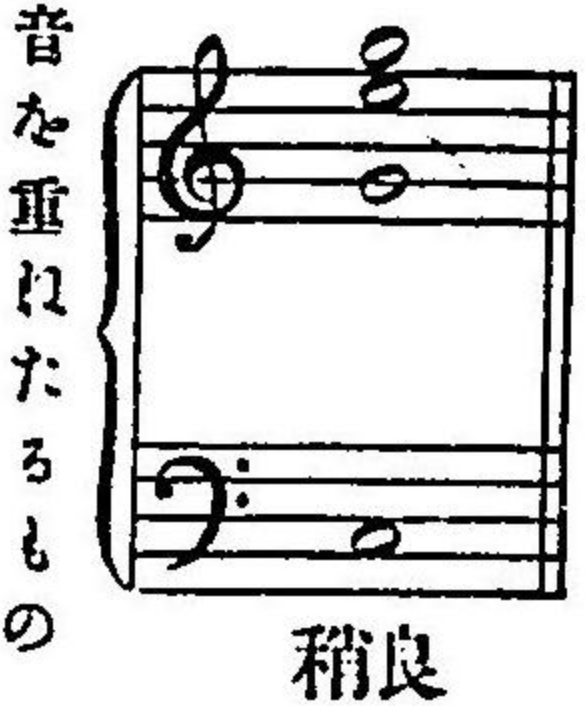
五、長短の兩和絃は之を普通和絃といひ或は又之を53の和絃ともいふ之れ其三和音に於ける上の二音は根音より數へて其第三及び第五の音程に當るを以てなり故に普通和絃には長三度と完全五度とより成る長和絃と短三度と完全五度とより成る短和絃との二種あることを知るべし

六、音符の下に一も數字を記載せざるか又は53或は單に5若くは3の數字のみを記載せるときは普通和絃を用ふることを示せるものなり故に

### 第二章 四聲音部

七、四聲音部(四重音)の和聲を構成せんには三和音中の或る一音を重複することを要するものにしてこの場合に於ては根音を重ぬるを以て最も良とし第五音之に次ぎ第三音の重複は稀なるものとす





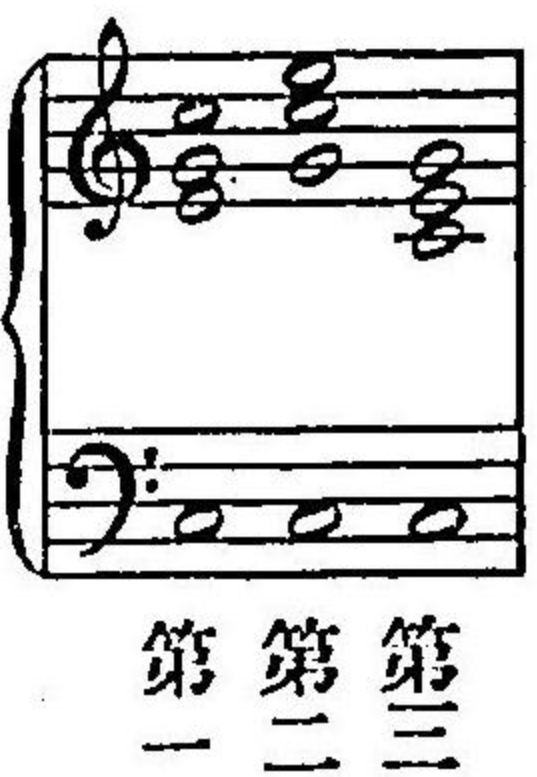
八、四聲音部に於ける最も上の音部は之を高音部といひ人聲にありては女子の最も高き聲音部に屬し次は之を



中音部と稱し女子の低き聲音部に屬す而して次は次中音部及び低音部と稱し次中音部は男子の高き聲音、低音部は男子の低き聲音に屬するなり上圖は人聲を以て唱ひ得べ

き聲音の區域即ち音域を示したるものなり

九、四聲音部より成る和聲に於て高音に根音の八音を存

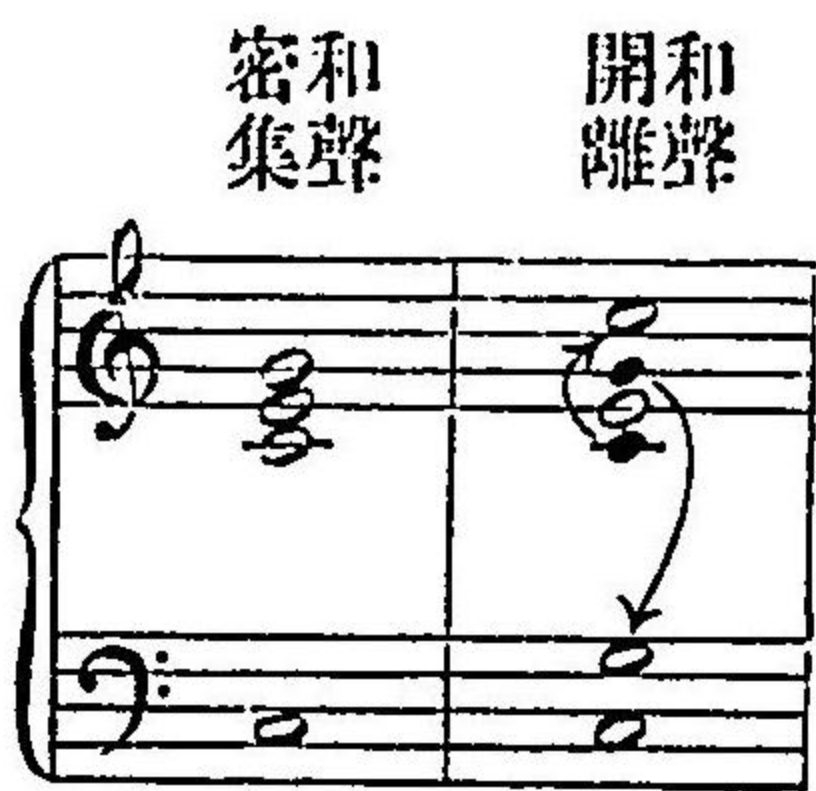


するときは之を三和音の第一の位置とし根音の三音を存するときは之を第二の位置、根音の五音を存するときは

は之を第三の位置とす故に三和音の位置は高音に表はれたる音が根音の第何音なるかに依りて決せらるゝものなり

一〇、四聲音部の和聲に於て高音の下に他の三聲音相近接せるときは之を密集和聲といひ四聲音互に相分散せるときは之を開離和聲といふ開離和聲は通例密集和聲



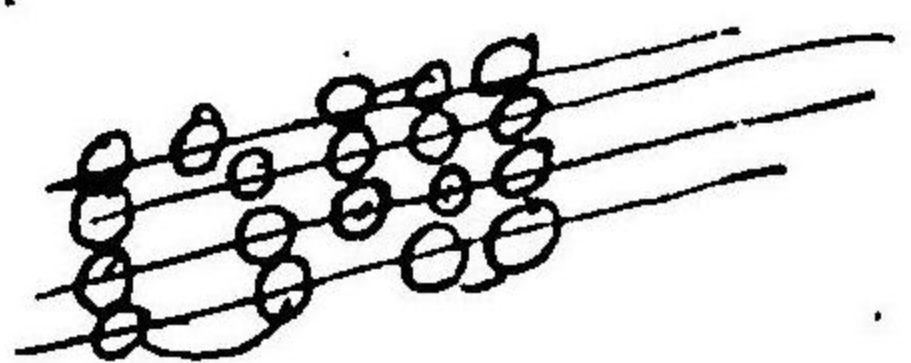


の高音を一八音低く下に移し次中音を高く上に移すことに依りて成るものにして開離和聲に於ける高音と中音及び中音と次中音とは通例一八音以上相離れざるを良しとするなり

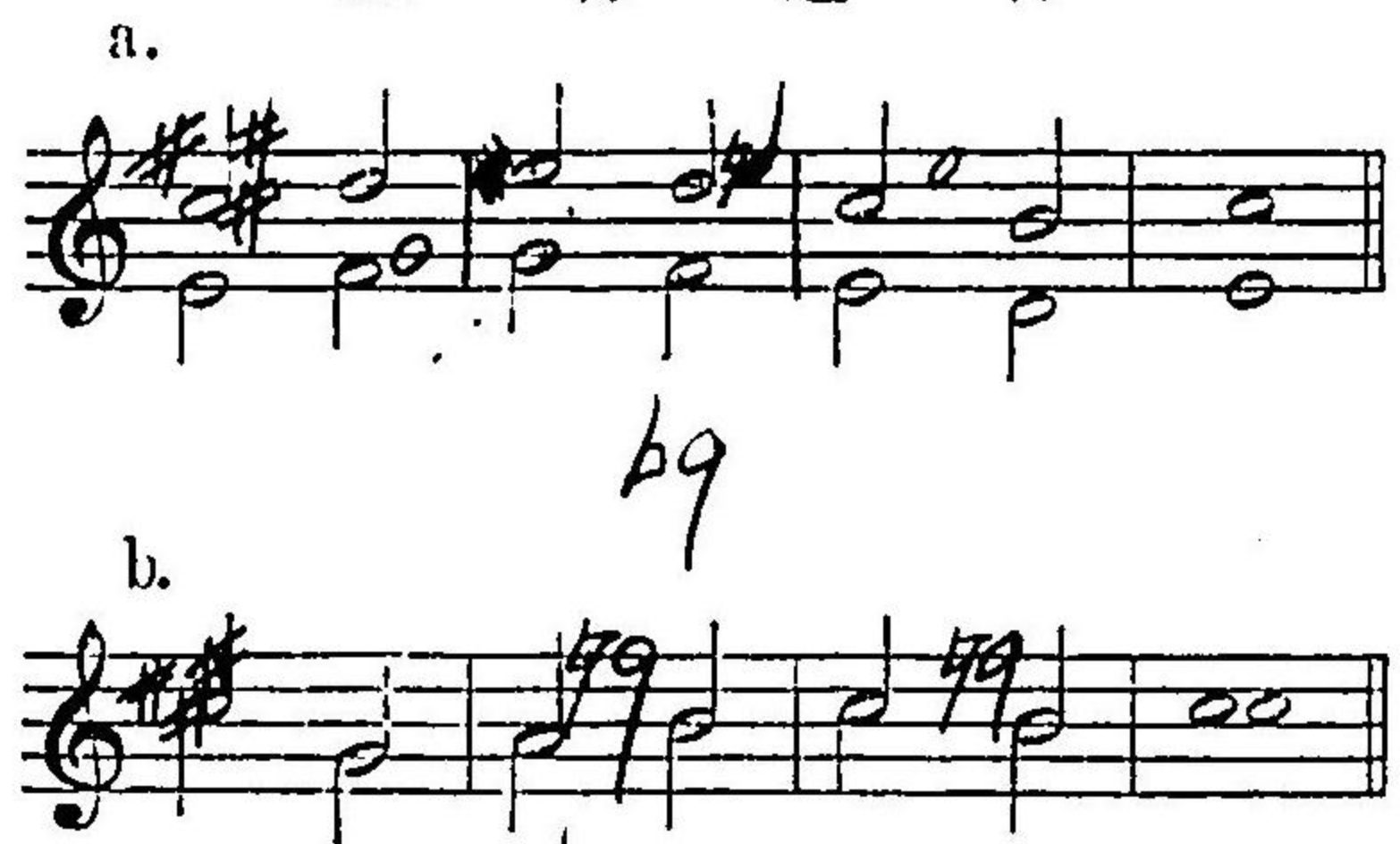
### 第三章 聲音部の進行

一一、諸聲音部の各或る方向に進むことを稱して進行といひ各聲音部の相互の關係により之を分ちて竝行進行、反行進行、斜行進行の三種とす

1. 竝行進行とは二若くは二以上の聲音部が相互に



#### 竝行進行



#### 反行進行



#### 斜行進行



竝行して上或は下に進行するをいふ但し二聲音部の進行の高度に異同あることは素より之

を問はざるなり

2 反行進行とは一の聲音部が上に他の聲音部が下に相反對の方向を取りて進行するをいふ



3 斜行進行とは一の聲音部が同度に止り他の聲音部が上或は下に進行するをいふ

一、二、和絃の連續に於ては三種の進行を混用するものにして例之は上圖の第一と第二との小節に於て下部の三聲音は互に竝行し且つ高音に對して各斜行進行をなし第二と第三との小節に於て上部の三聲音は互に竝行し且つ低音に對して各反行進行をなすが如きものなり



第四章 和絃の連合

一三、和絃を連合するに當り緊要なる規則數條あり今左に之を擧げて逐次解明する所あらんとす

1. 二若くは二以上の和絃に共通なる音は成るべく之を兩和絃の同一聲音部に保持せしめ弧線を以て之を連結すべし而して殘餘の諸聲音は徒に大なる



跳越をなさしむることなく  
良 して其前和絃に近接せる位  
不良 置に進行せしむべし

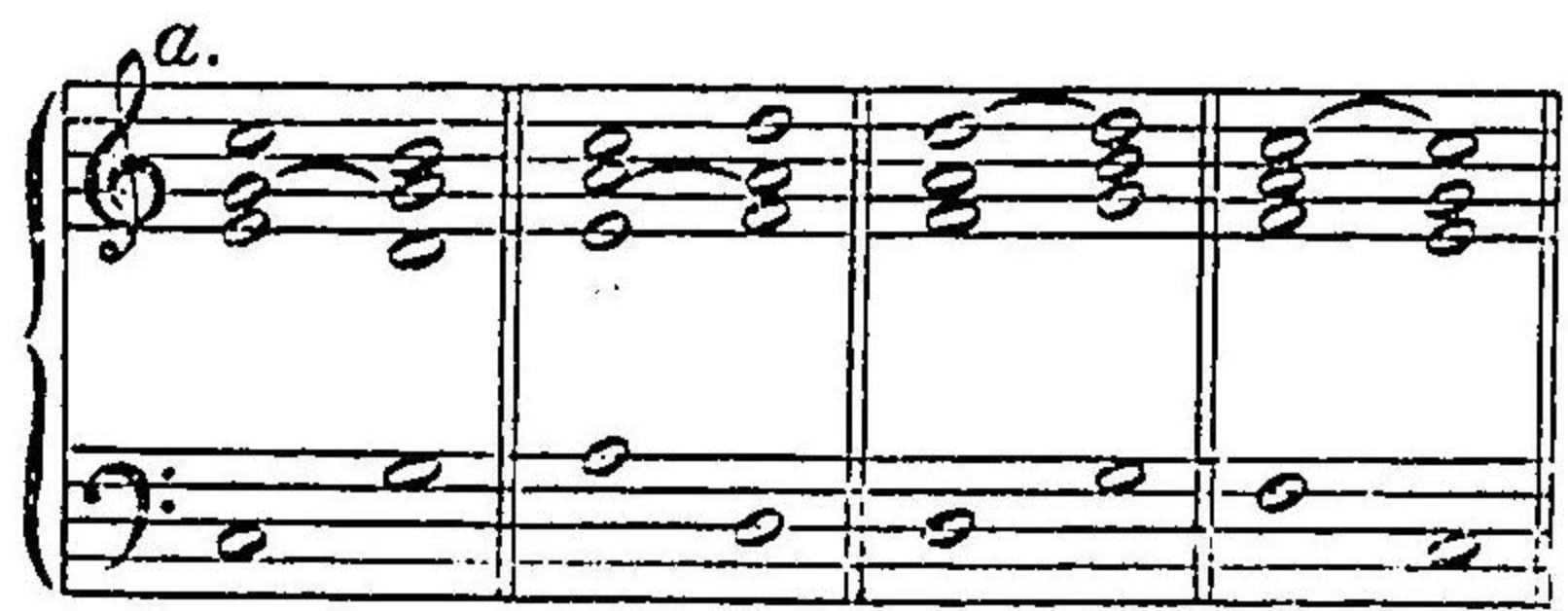
a 圖の(ト)音は兩和絃に於て同一聲音部即ち中音部に保たれ他の二聲音部に於ける(ハ)は(ロ)に(ホ)は(ニ)に進み何れも相近接せるを以て之を良とし  
b 圖は始めの和絃に於て(ト)音は中音部に存し次の和絃に至り次中音部に



移りたるを以て之を不良とするなり

附言 或る低音が五度若くは四度上行或は下行して他の低音

に至るときは必ず一の  
共通音を有し(ハ圖)三度  
若くは六度上行或は下  
行するときは必ず二の  
共通音を有するものな  
り(ト圖)



2. 次に連結せる和絃に於て前和絃と共通の音を存

せざるときは低音に反行して成るべく前和絃に近  
接せる位置に進行せしむべし



良

低音は(イ)より(ト)に下行せるを以て上の三聲音  
は之に反行し且つ前和絃に近接せる位置に進  
めるを以て之を良とするなり



不良

上部の三聲音は低音に反行せりと雖も大なる  
跳越をなして前和絃に遠かれるを以て之を不  
良とするなり

3. 二つの聲音部が相互に五度若くは八度の間隔を  
取りて連續進行するときは之を連續五度及び連續  
八度と稱し和絃の連合に於てはこの進行を避くべ



きものとす



第一小節に於て高音部と低音部とは連続八度をなし次中音部と低音部とは連続五度の進行をなせり而して第一小節の第二の和絃と第二小節の第一の和絃とに於て次中音部と低音部とは連続五度第二小節の中音部と次中音部とは連続八度及び次中音部と低音部とは連続五度を生ず。

4. 連続五度及び八度の關係が同聲音部にあらざるときは進行することを得るものとす

上圖の如き連続八度及び五度の進行は其聲音部を異にするを以て敢て妨げなきものとす



5. 連続五度が反行進行によりて生じたる時は並行進行の場合の如く不結果にあらず殊に一聲音が

内聲に屬し他の聲音が屬和絃より主音に進行する場合に於て然りとす



可



6. 或る進行に於ては普通和絃の五音を省略して其他の音を重複すること必要なりこの場合には低音若くは其八音を重複するを以て最も良とし三音を重ぬること稀なりとすされど第三音は決して省略すべからざるものなり



不良



良

上圖のaに在りては上の三聲音は低音に反行し三音五音八音を具備せりと雖も中音部に於て嬰(ト)音が(ハ)音に進み茲に増二度を生じ進行の規則次の7項參看に背きたり故に之を不良とす

7. 二度以上に互る増音程の進行は之を避くることを要す

一四、相離れたる二聲音が竝行進行をなして八度若くは五度隔りたる音に進むときは茲に隱伏八度若くは隱伏五度を生ず而してこの隱伏音に關して

めて(イ)音に進ましめたり是に於て(ロ)音は上行して(ハ)音に進むか或は下行して(イ)音に進むか何れか其一を選ばざるべからず然るに今若し(ロ)音を上行せしめんか茲に低音と連続五度を生ずるに至るを以て下行せしめて(イ)音第三音を重複せしめたるものなり

隱伏五度



隱伏八度





は未だ一樣の法則なく諸家其説を異にせり之れ蓋し顯著なる結果を生ぜざるに依るならむ今左に諸家の説を綜合して其據るべき大要を示さんとす

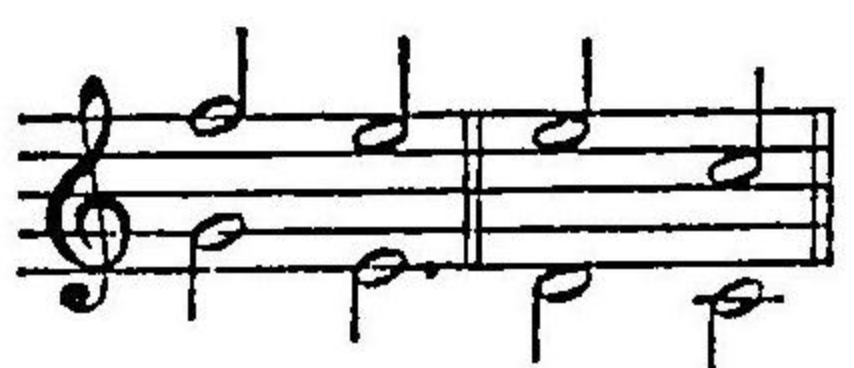
1. 外聲(高音と)に於ける隱伏八音は一般に之を禁ずべきものとす、されど



可

低音が四度上行するか或は五度下行する場合に於て高音が順次進行(aの如く半音の進行を)をなすときは之を許すべきものとす

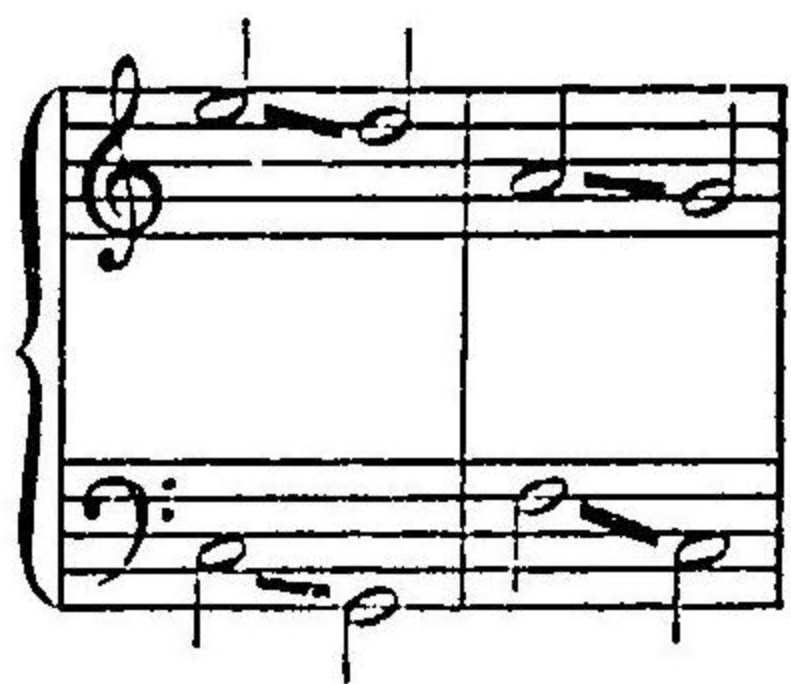
2. 内聲の隱伏八音は許さるべきものとす、されど唯一の重要な例外として



不可

七度若くは九度より一八音に進行して生ずる隱伏八音は之を嚴禁すべきものとす

3. 外聲に於ける隱伏五音は一般に之を禁ずべし、されど



可

低音が主和絃より屬和絃に進行するか或は次屬和絃より主和絃に進行する場合に於て高音が順次進行をなす時は之を許すべきものとす



内聲の隠伏五音は總て之を許すべきものとす

C: I V I IV V I

例題第一

與へられたる低音に上の三聲音部を和せし例以下第十例題に至る皆等し

一、二、三并に五六小節に於ける(ト)音及び三、四小節に於ける(ハ)音は其各和絃に共通なるを以て之を同聲音部に保たしめて連結し五小節に於ては前和絃(四小節)と共通なる音一もなきを以て低音に反行し且つ最も近き位置に進ましめたるものなり而して三小節より四小節に移れる次中音と低音とに於ける隠伏八音は外聲のものにあらざるを以て進行を許したるなり(第十四節2項參看)

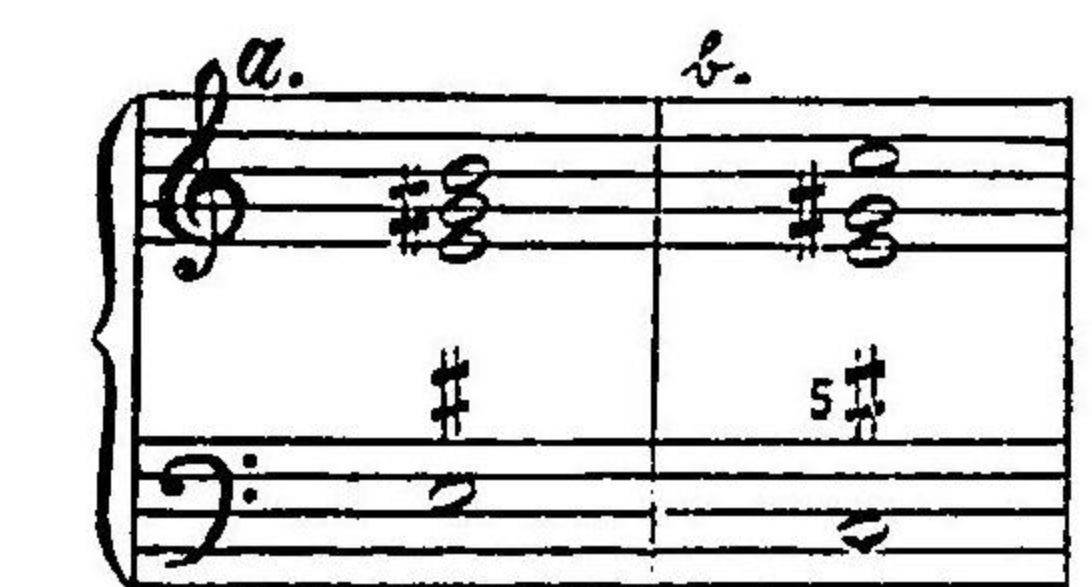
練習題第一

I V I IV V I



注意 第一の低音上に記載したる3或は5の數字は高音に於て根音の第三音或は第五音を表はすべきことを示すものにして何等の數字をも記載せざるものは第一例題に於けるが如く高音に於て根音の第八音を表はすべきものなり但しこは問題の第一の和絃にのみ適用せらるべきことゝす

一五、 低音の上或は下に嬰變若くは本位記號を記載せる



は低音より數へて其第三音に該記號を附すべきことを示すものにして(a圖)若し其臨時記號に某數字を附加せるときは低音より數へて某數字に相當せる音に該記號を附記すべきことを示すものなり(b圖)

例題第二



第一小節に在りては低音上に3の字を記載せるを以て高音に於て低音の第三音(ハ)を顯はし、第二第三小節の低音(ホ)の上に嬰記號を有するを以て何れも其三音たる(ト)音に之を附したるなり而して第二小節の第二和絃に於て(イ)音を重複せしめたるは若し中音が根音の三音たる(ハ)に進むときは嬰(ト)より(ヘ)に至る増二度の音程を生じ高音を(ハ)に上行せしむるときは低音に並行して連続五音を生ずるを以てなり



練習題第二

1. Bass clef, C major, chords: C4-E4-G4, F4-A4-C5, G4-B4-D5, F4-A4-C5.

2. Bass clef, C major, chords: C4-E4-G4, F4-A4-C5, G4-B4-D5, F4-A4-C5. Figured bass: 3, 5#.

3. Bass clef, C major, chords: C4-E4-G4, F4-A4-C5, G4-B4-D5, F4-A4-C5. Figured bass: 3.

4. Bass clef, C major, chords: C4-E4-G4, F4-A4-C5, G4-B4-D5, F4-A4-C5.

5. Bass clef, C major, chords: C4-E4-G4, F4-A4-C5, G4-B4-D5, F4-A4-C5. Figured bass: 3.

6. Bass clef, C major, chords: C4-E4-G4, F4-A4-C5, G4-B4-D5, F4-A4-C5.

7. Bass clef, C major, chords: C4-E4-G4, F4-A4-C5, G4-B4-D5, F4-A4-C5. Figured bass: 5b.

第五章 普通和絃の轉回

一六、普通和絃の根音が低音に存せざるときはこの和絃を稱して轉回和絃といふ而して普通和絃の轉回に左の二種あり

1. 低音に於て根音の第三音を存する和絃を第一轉回和絃若くは六の和絃といひ6 3 又 は6の數字を記載して之を表はすものとする之れ低音上の二音は低音より

6  
根音(ハ)

數へて其第六及び第三の音程に當るを以てなり

注意 根音は和絃の基礎を成せる音即ち和絃は基礎音と其第

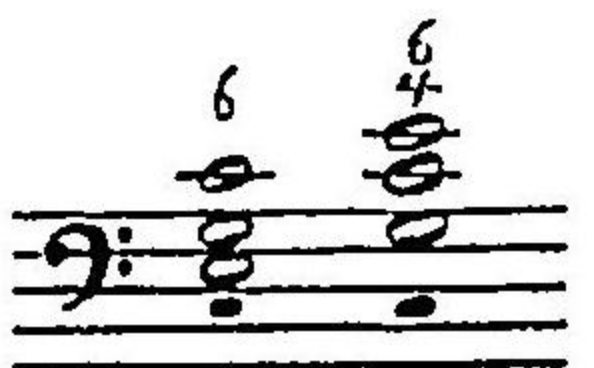


三音及び第五音とより成る)にして低音は四聲音部の最低部分に表はれたる音なり、二者混同すべからず

2. 低音に於て根音の第五音を存する和絃を第二轉回和絃若くは六四の和絃といひ必ず6 4の數字を記載して之を表はすものとす之れ低音上の二音は低音より數へて其第六及び第四の音程に當るを以てなり故に



は第一及び第二轉回を示すものにして



を意味し根音は何れも(ハ)音にて(ハ)調長音階の第一度の和絃なり

一七、六の和絃を連合するに當り緊要なる規則數條あり左に之を擧ぐべし

1. 六の和絃に於ては根音の第三音(即ち低音)は之を重複せざるを以て通則とすと雖も短和絃にありては場合によりて之を重ねるも敢て不可なく減和絃にありては之を重ねるを以て一層良とするものなり
2. 六の和絃の連續して進行する際に在りては根音の第三音は次の二つの場合に限り之を重複することを得るものとす
  - a. 低音の全音階的に進行する場合に於て上部



近來は和音の名稱は上に書かれ、音名は下に書く



の三聲音が悉く之に反行進行をなすときは、毎和絃に於て根音の第三音を重ぬることを得

b.

前項の場合に於て上部の三聲音中一部たり

とも低音に竝行進行をなすものあるときは、交互の和絃に於て根音の第三音を重複せしむべきものとす



3.

六の和絃に於ては根音の第五音及び第八音(即ち

低音の第三音及び第六音)は何れを重ぬるも不可なしと雖も其の連續進行の場合に於ては第五音及び第八音を交互に重ぬるを以て殊に可なりとするなり

4.

低音に記載したる數字は左の意味を有するもの

なり

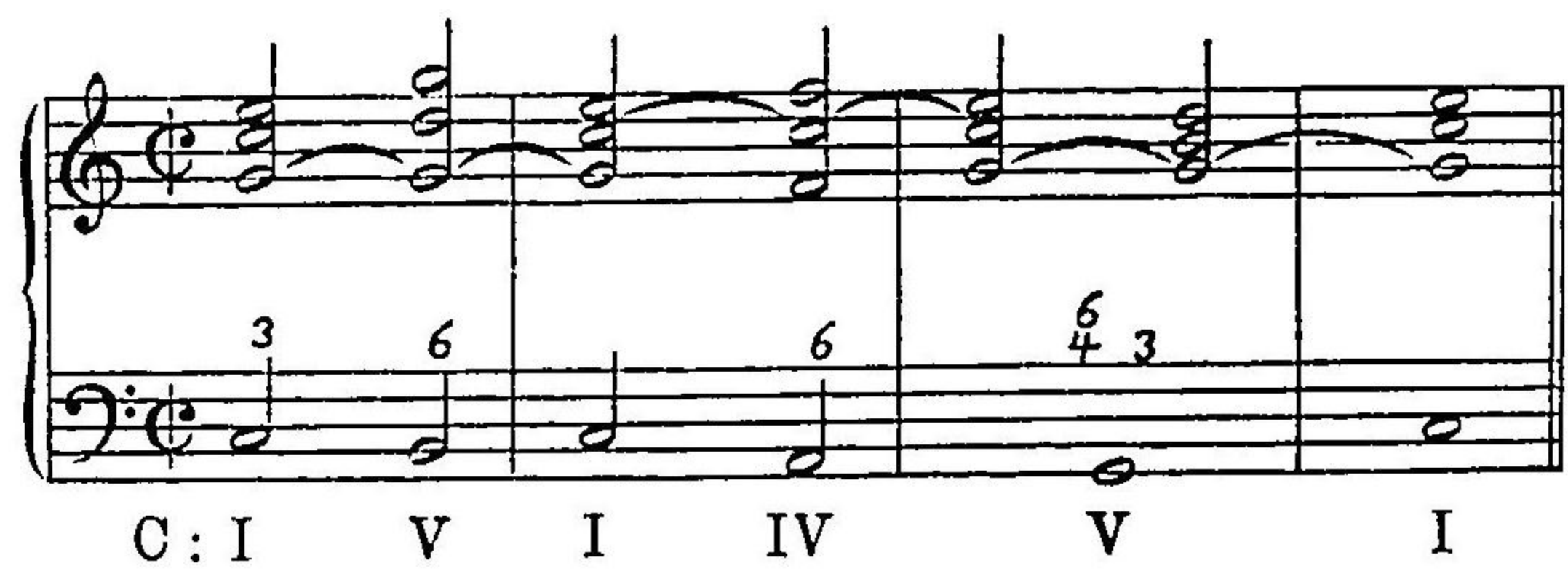
a.

6 43 の如く二行に記したる數字はこの低音

によりて二種の和絃を作るべきことを示すものにしてこの低音は一は六四の和絃の低音と

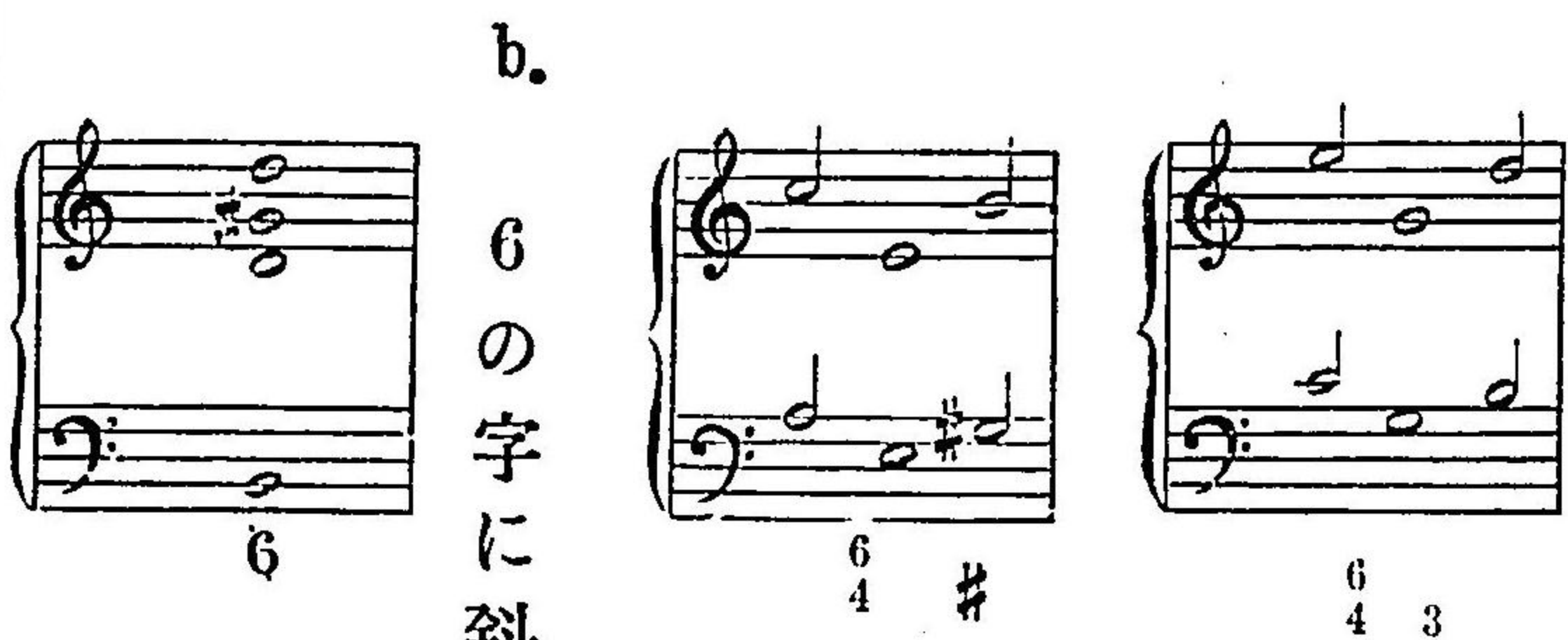






例題第三

第一及び第二小節の六の和絃は何れも長和絃なるを以て三音の重複を避け一  
小節にありては第八音(ト)を重ね二小節  
にありては根音(ヘ)を重ねたり三小節に  
於ける低音(ト)の前半は六四の和絃なる  
を以て根音(ハ)より導かれ後半は(ト)の普  
通和絃なるを以て根音(ト)より導かるゝ  
ものなり



なり一は普通和絃の根音とな  
るべきものなり而して3の字  
に代へて6<sup>4</sup>#の如く一個の嬰記  
號を記載せるときは前の場合  
と同じく低音の後半部を普通  
和絃の根音となし且第三音に  
該記號を附記すべきものとす  
ことを示すと同時に低音上の  
第六音を半音上ぐべきことを  
示すものなり



練習題第三

第六章 七の和絃

一八、七の和絃は普通和絃に其第七音を添加したるものにして獨立し得べからざる不協和絃なり故に七の和絃には必ず或る協和絃を伴はしむることを要するものに

してこの不協和絃より協和絃に進行することを稱して解決といふ換言すれば解決とは不興の感を與ふる一の不協和絃より靜止の快感を起さしむる一の協和絃に進行するをいふなり

一九、左に七の和絃の規則を擧ぐべし



1. 七の和絃の第五音は屢之を省略して根音を重複することあり三音の省略之に次ぐ然れども根音及



び七音は決して省略すべからざるものとす之れ第七音はこの和絃中最も主要なる音にしてこの音の存在によりて七の和絃たることを得るものなるを以てなり

2. 低音に記載したる数字は左の意味を有するものとす

a. 7の数字の下に嬰變若くは本位記號を記載せるときはこの和絃の七の和絃たることを示



すと同時に低音上の第三音に該記號を附記すべきことを示すものなり

b. 67<sup>4#</sup>の如く二行に記されたる数字は前半部を



六四の和絃とし後半部を七の和絃となし且つ七の和絃の第三音に嬰記號を附すべきことを示すものなり

### 第七章 七の屬和絃

二〇、七の和絃中最も緊要にして且つ屢顯出する所のも

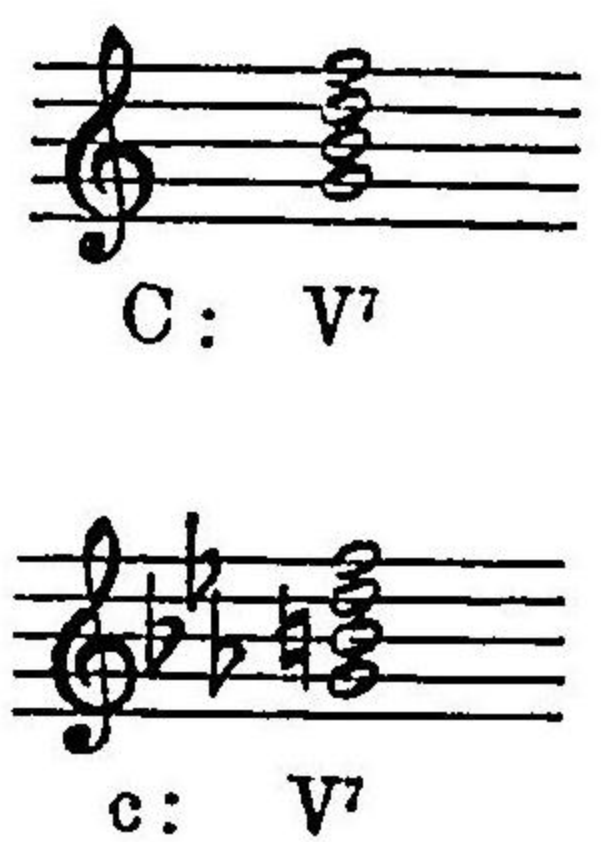




のは屬和絃の上に構成せられたる七の和絃即ち七の屬和絃なり故にこの和絃は又第一の七の和絃とも稱せられ時には短七度の和絃とも

稱せらる之れ即ち短第七度を添加するを以てなり

二一、七の屬和絃は長和絃に短七度を加へたるものにして長短兩調に於て全く同一なるものなり而してこの和絃はVの数字の右側に7を附記すること



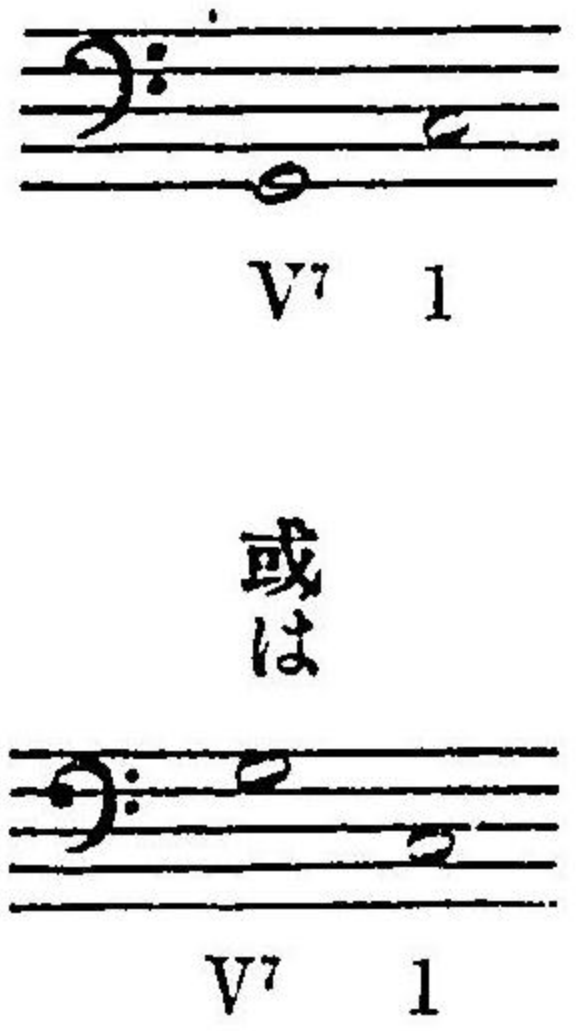
て長短兩調に於て全く同一なるものなり而してこの和絃はVの数字の右側に7を附記すること

に依りて表はさる

二二、七の屬和絃の解決には音階の主音の和絃を伴はし

むるを以て最も完全にして且つ普通なりとす故に今其完全なる解決を行ふに當り必要なる規則數項を示すべし

1. 低音は四度上行するか或は五度下行すべし



2. 七の屬和絃の第三音は常に音階の導音に當るものなるを以て之が進行につきては特別の注意を要し場合によりて其の方向を異にするものなるを知らざるべからず



a. 第三音が外聲に屬するときは二度上行して



稀 音階の主音に入らしむべし(a)  
甚 圖是れ旋律上に於ける導音の  
可 性質なればなり然るに若し之  
に反し下に向て跳越進行をな  
すときは(b圖)自然的にあらず

して吾人を満足せしむるに足らざるなりされど斯る進行は或る特殊の場合に於て甚だ稀に用ゐらるゝことあるものなり

b. 第三音が内聲に屬し且つ低音が之に反行して解決和絃の根音に上行するときは第三音は

三度下行せしめ或は時に二度上行せしむべし



良

c. 前項に於て若し低音が解決和絃の根音に下



不良 良

行する場合には茲に隱伏五度を生ずるを以て三音は必ず二度上行することを要す

3. 第五音の進行は自由なり二度下行するを通例と



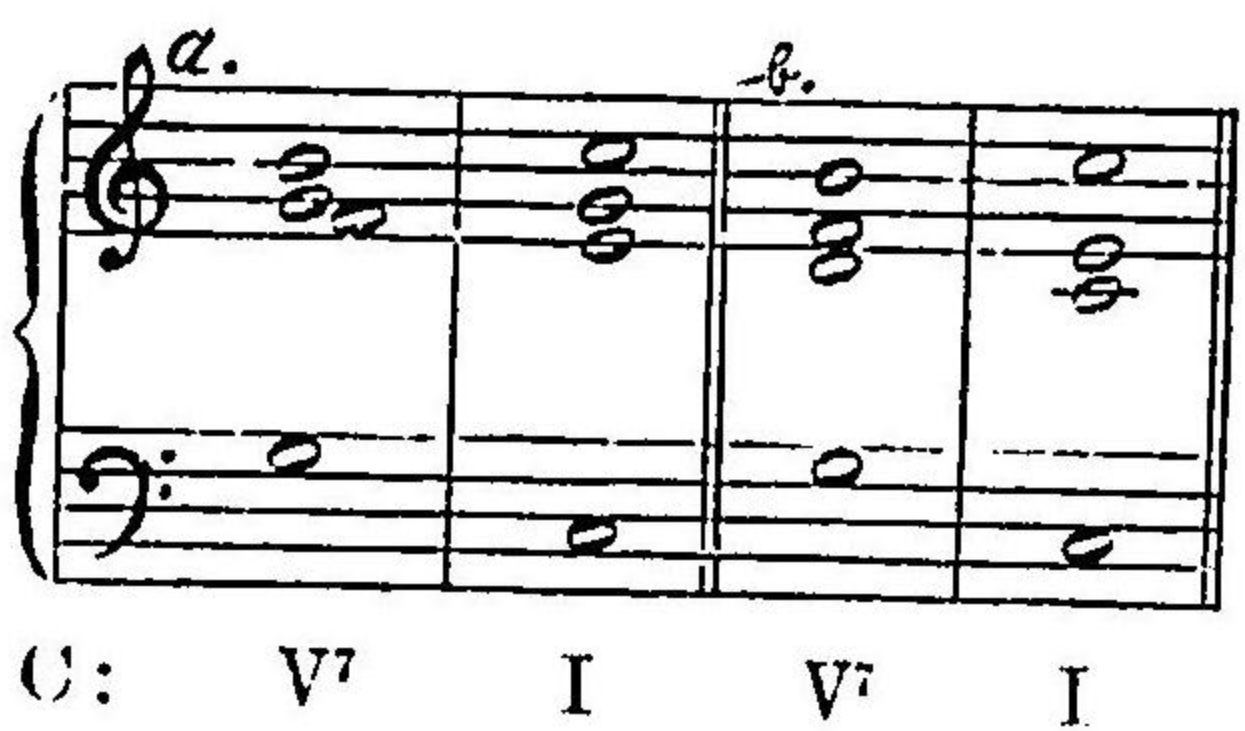
すれども時には二度の上行を要することあるものとす

4.

第七音は二度下行するを以て常例とす(されど破格の進行をなすことあり第十三章に就て看るべし)

附言

1. 第六章拾九節一項に説きたることに依りて七の



和絃が不完全和絃(第五音省略)なり(其は其解決和絃は完全和絃となり) (a) 圖前者が完全なるときは後者は不完全となるものなり (b) 圖

2. 本節二項の場合の如く七の和絃の第三音が内聲にありて低音が之に反行するときは兩者とも完全和絃となるものなり

二三、 左に長短兩調に於ける七の屬和絃の解決を示すべし





C: I V<sup>7</sup> I II V<sup>7</sup> I I I V<sup>7</sup> I

例題第四

第二及び第三小節の第一の和絃に於て三音を重複したるは第十七節二項の規則を適用したるものにして第四小節の六の和絃に於ては三音の重複を避けたるものなり而して第三小節の七の屬和絃に於ては其第五音を顯はし第五小節に於ては之を省略せり従て其解決も前者は不完全となり後者は完全和絃となる(第二十二節附言參看)

a: I I II<sup>o</sup> V<sup>7</sup> I II<sup>o</sup> V I I V<sup>7</sup> I

例題第五

第二小節の第二の和絃に於ては七の和絃を構成すると同時に低音(ホ)の第三音たる(ト)に嬰を附し(第十九節第二項)第五小節に於ては低音(ホ)の前半を(イ)の普通和絃後半を(ホ)の七の和絃となし且つ(ホ)の三音たる(ト)に嬰を附したることは第二小節の七の和絃に等しとす(第十九節第二項)



練習題 第四

1. Bass clef, C major, 4/4 time. Notes: G2 (5), A2 (7), B2 (6), C3 (6/4), D3 (7).  
 2. Bass clef, C major, 4/4 time. Notes: G2 (3), A2 (6), B2 (7), C3 (6/4), D3 (3), E3 (6/4), F3 (7).  
 3. Bass clef, D major, 4/4 time. Notes: G2 (6/4), A2 (7), B2 (6), C3 (6/4), D3 (7).  
 4. Bass clef, C major, 4/4 time. Notes: G2 (6), A2 (7), B2 (6), C3 (6/4), D3 (7).  
 5. Bass clef, D major, 4/4 time. Notes: G2 (6), A2 (6), B2 (6), C3 (7), D3 (6).  
 6. Bass clef, C major, 4/4 time. Notes: G2 (6), A2 (7), B2 (6), C3 (6/4), D3 (7).  
 7. Bass clef, D major, 3/4 time. Notes: G2 (3), A2 (6), B2 (7), C3 (6), D3 (6), E3 (7).

第八章 七の屬和絃の轉回

二四、普通和絃に於けるが如く七の屬和絃にも亦轉回ありて低音に根音を存せざることあり而して其轉回は左の三種なり

1. 低音に於て根音の第三音を存するものは第一轉

6 5  
根音(ト)

回にして之を六五の和絃といひ低音上に6 5 3 或は6 5の數字を記載して之を示す之れ即ち低音上の三聲音は低音より數へて其第六、第五及び第三の音に當ることを意味するなり



2. 低音に於て根音の第五音を存するものは第二轉回にして之を四三の和絃といひ低音上に6 4 3 或



は4 3の數字を記載して之を示す、之れ即ち低音上の三聲音は低音より數へて其第六、第四及び第三の音に當ることを意味するなり

3. 低音に於て根音の第七音を存するものは第三轉回にして之を普通に略して二の和絃



といひ低音上に6 4 2 或は4 2 更に略して2の數字を記載して之を示す、之れ即ち低音上の三聲音は低音より數へて其第六、

第四及び第二の音に當ることを意味するなり

二五、轉回和絃の解決は略七の屬和絃の解決に等し特に

其異なる點を擧ぐれば左の如し

1. 根音は解決和絃の第五音に進み同聲に於て保續せらるゝものなり(次の圖參看)

2. 第二轉回の次に六の和絃を伴ふときは第三音の

重複を避けんがため第七音を二度上行せしむべきものにして斯る進行は破格の場合として許さるべきものなり



3. 第三轉回は常に六の和絃に進行して解決するものなり



二六

のとす(次節。圖參看) 左に轉回和絃の解決の一斑を示すべし

(イの短調)

(ハの長調)

a.

a: V<sup>7</sup> I

a.

C: V<sup>7</sup> I

b.

a: V<sup>7</sup> I

b.

C: V<sup>7</sup> I

c.

a: V<sup>7</sup> I

c.

C: V<sup>7</sup> I

例題第六

第一小節の第二の和絃は七の屬和絃の第一轉回にして低音(口)は根音(ト)の第三音なり、第四小節の低音(へ)は前半に於て普通和絃の根音となり後半に於て七の屬和絃の第三轉回の第七音となるものにして其根音は(ト)音なり而して第五小節の第二の和絃も同じく七の屬和絃の轉回にして低音(ニ)は根音(ト)の第五音なりとす(第八章參照)

C: I V<sup>7</sup> I V I - IV V<sup>7</sup> I V<sup>7</sup> I VI II V<sup>7</sup> I



練習題第五

d: I V IV V I V I II° I V I

例題第七

第三小節の低音(ト)は前半に於て普通和絃の根音となり後半に於て第七屬和絃の第三轉回、の第七音となるものにして4に斜線を附したるは低音(ト)の第四音たる(ハ)に嬰記號を附すべきことを示すものなり



第九章 從屬七の和絃

二七、長短兩音階の各度に於て其普通和絃に根音の第七音を加ふるときは茲に七の和絃を構成するものにして七の和絃中七の屬和絃及び導音上(長短兩音階の)の七の和絃を除きたる其の他の總ての和絃を從屬七の和絃といふなり左の如し

第九章

從屬七の屬和絃

|                        | 長音階  | 短音階   |
|------------------------|--|---|
| 1. 長の普通和絃に長第七度を添加したるもの |  |    |
| 2. 短の普通和絃に短第七度を添加したるもの |  |    |
| 3. 減の普通和絃に短第七度を添加したるもの |  |   |
| 4. 短の普通和絃に長第七度を添加したるもの |  |  |
| 5. 増の普通和絃に長第七度を添加したるもの |  |  |

注意

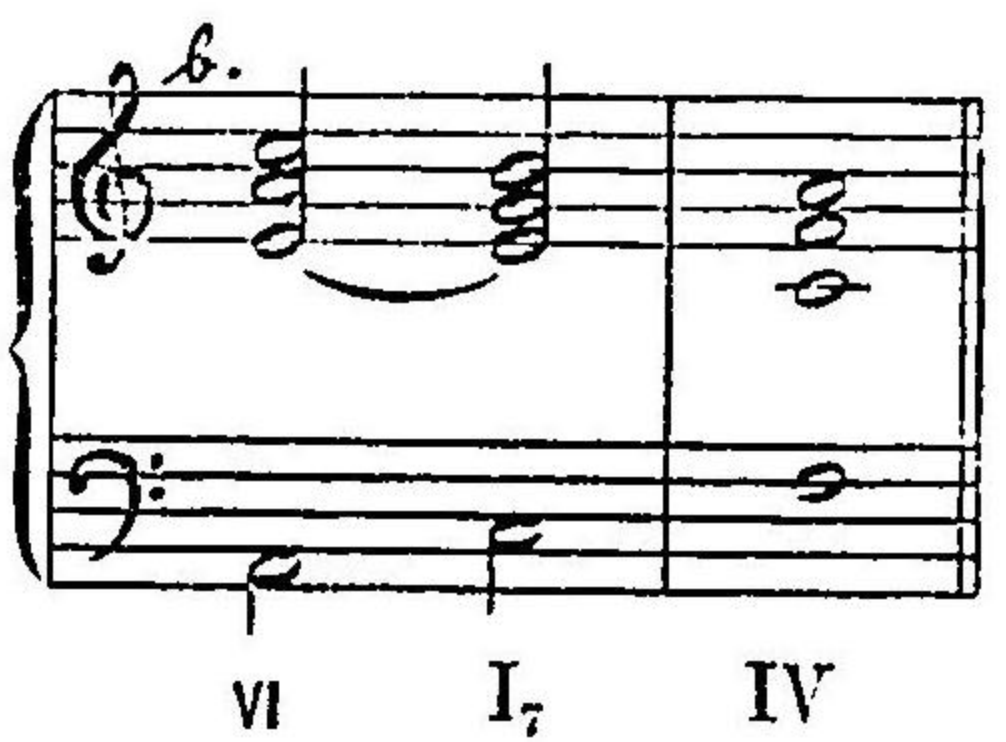
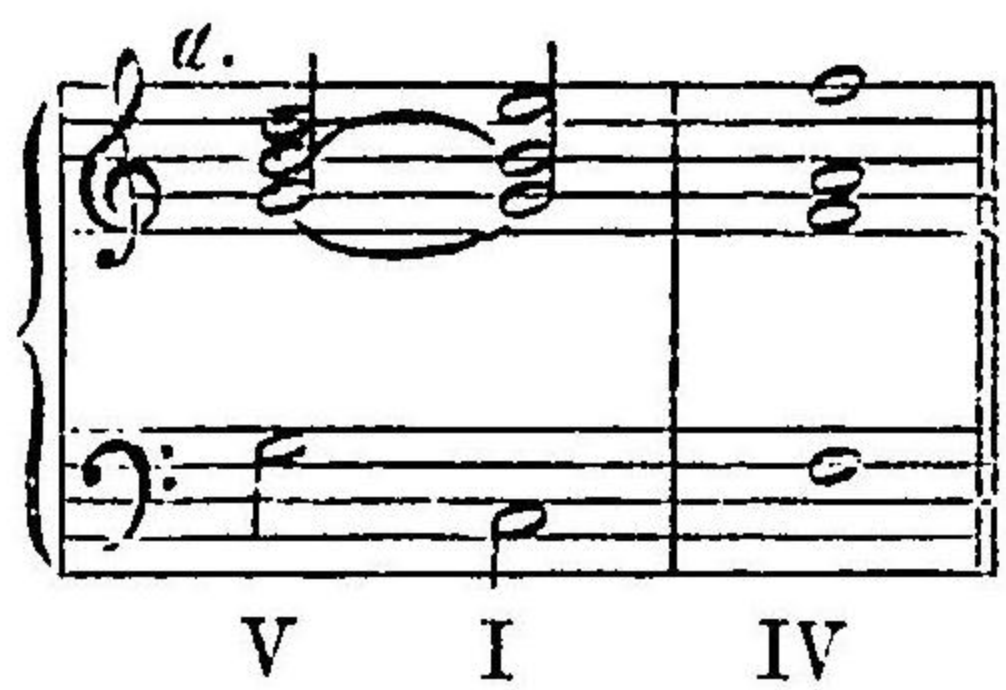
1. 長の普通和絃に短第七度を添加したるものは七の屬和絃なり(第七章參看)
2. 減の普通和絃に短第七度を添加したるものは七の導音和絃なり(第十一章參看)
3. 減の普通和絃に減第七度を添加したるものは減七の和絃なり(第十一章參看)



二八、從屬七の和絃は七の屬和絃の如く明確鮮美なるものにあらずして他の和絃との連結なきときは其音の粗暴殆ど聽くに忍びざるものあるなり然れども和聲の連續に變化と色彩とを與ふるものなるを以て之を用ふること少なからず今左に其解決に就き緊要なる條件を示すべし

1. 從屬七の和絃の第七音は豫め前の和絃に於て之を顯出せしむる(之を豫備といふ)か或は前和絃より全音若くは全音階的半音の進行によりて第七音に入らしむべきことを要す

a. の如く第七音(口)を前和絃(五度の普通和絃)に於て豫備し置



くか或はりの如く全音階的半音の(ハ)より第七音(口)に進行なさしむるときは吾人をして愉快の感を生じしむるものなり

2. 短音階に於ける從屬七の和絃は二度及び導音上

のものを除きては皆何れも明確を缺き鮮美なる旋律を作さざるものなるを以て之を使用すること甚だ尠し而して其二度上に構成せらるゝ所のものは屬和絃に解決し然も完美なる調和を生ずるも

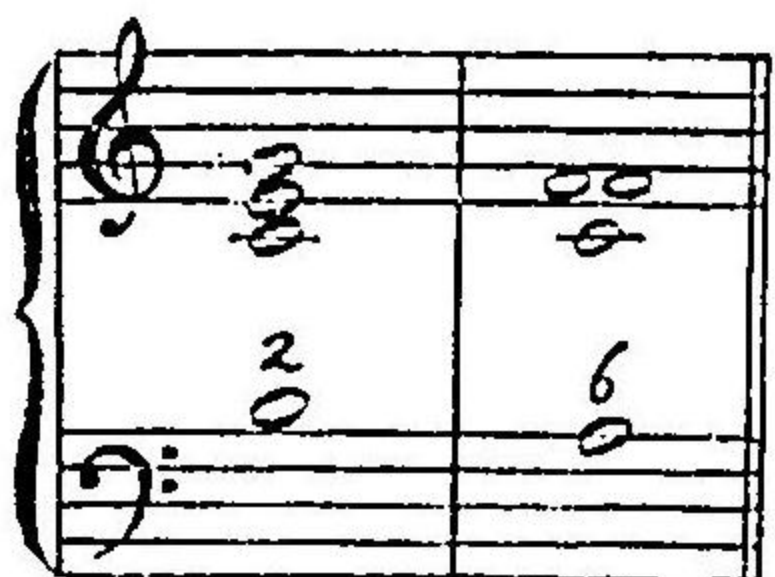




のなるを以て之を用ふること屢なり唯其解決に於て第三音の下行せるは七の屬和絃の解決(第七章二三節)と異なる所とす

### 第十章 從屬七の和絃の轉回

二九、七の屬和絃に轉回あるが如く從屬七の和絃にも亦三種の轉回ありて之が解決も亦七の屬和絃に等し



### 第十一章 減七の和絃及び七の導音和絃

三〇、短調の導音上に於ける七の和絃は之を減七の和絃と稱し減三和音に減第七度を添加したるものなり而して和絃を構成するに當りては根音は導音なるを以て之を重複せざることに注意し解決に於ける各音の進行は次の要項に従て之を行ふべし



1. 根音は二度上行して主和絃に進むべし
2. 第三音は七音の下にある場合には二度上行し(a





C: VII<sup>7</sup> 1

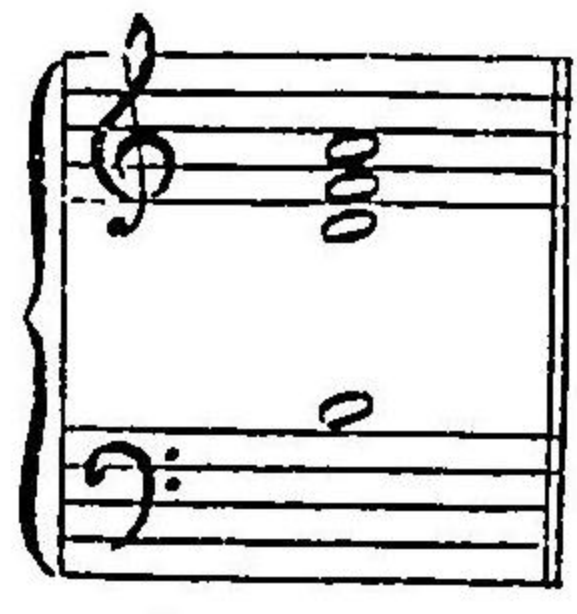


C: VII<sup>7</sup> 1

圖七音の上にある場合には二度下行す(ト)

- 3. 第五音は常に二度下行するものとす
- 4. 第七音は常に二度下行するものとす

三一、長調の導音上に於ける七の和絃は之を七の導音和絃と稱し減三和音に短第七度を添加したるものなり而してこの和絃の解決は減第七の和絃に等し



C: VII<sup>7</sup>

### 第十二章 七の和絃の連續

三二、七の和絃が二個以上連續して顯はるゝ場合には之を七の和絃の連續といひ各和絃の第七音を解決せしむることを要す而して其解決は次の一則に従て之を行ふべし

七の和絃の連續に於て其各和絃の低音に根音を存するときは第七音の解決のために隔次の和絃の第五音を省略することを要す



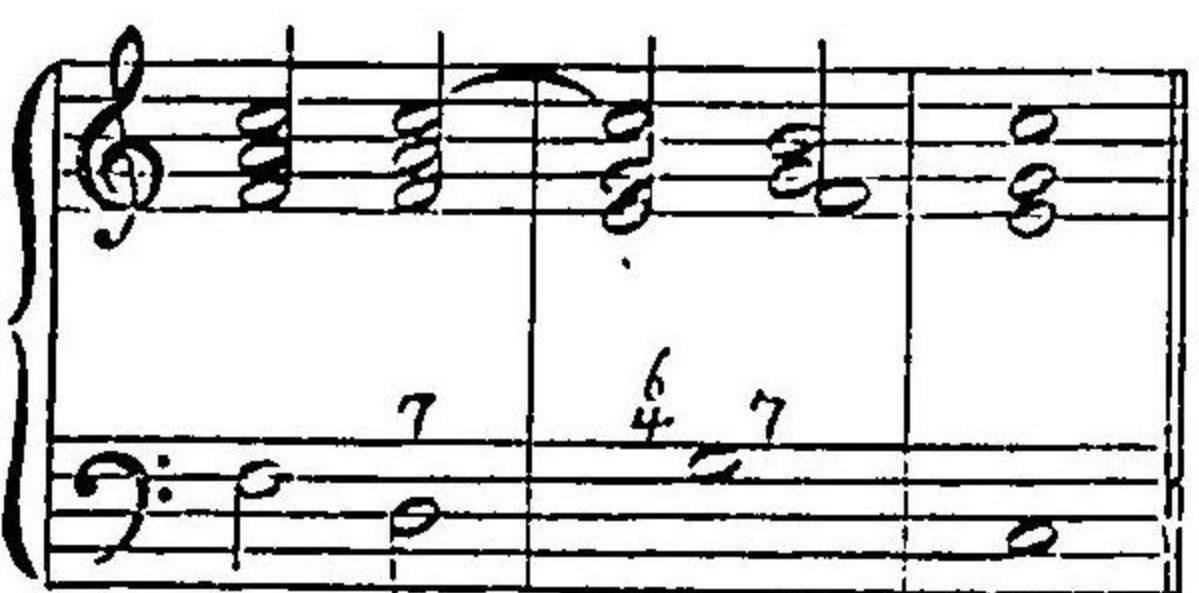
II<sup>7</sup> V<sup>7</sup>

上例の二つの和絃の低音(ニ)及び(ト)は根音なるを以て第二の和絃に於て(ト)の五音たる(ニ)を省略して根音(ト)を重複せり但し始の和絃に於て五音を省くも可なりとす



### 第十三章 第七音の破格進行

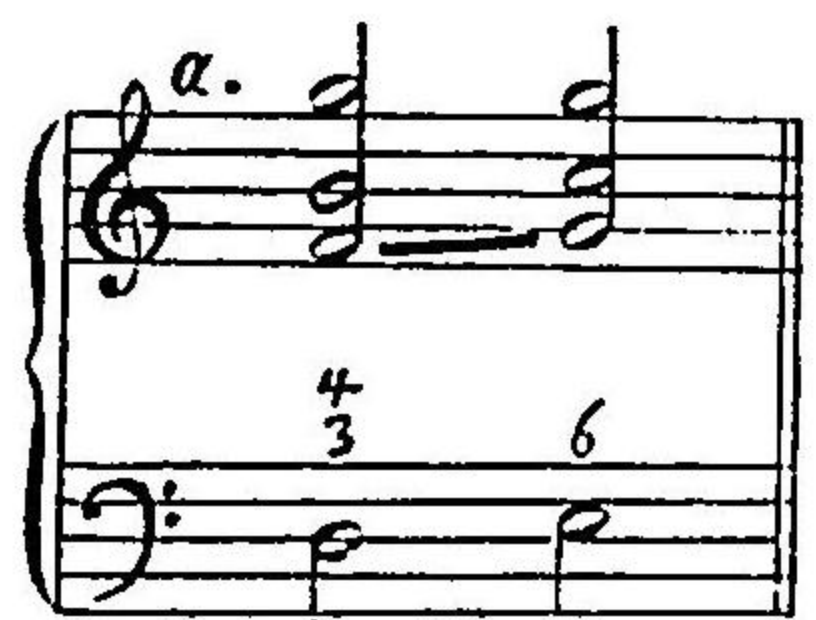
三三、七の和絃に於ける第七音は常に二度下行するを以て定例となせども次に述ぶる破格の場合に限り其進行を異にするものとす



1. 七の和絃と其解決和絃との間に或る他の和絃の存する場合には其解決を猶豫することあるものなり

第一小節の七の和絃の七音(ハ)は次の六四の和絃に於て解決することなく同音に保続せられ以て解決の猶豫せらるゝを見るべし

2. 四三の和絃の次に六の和絃を伴ふときは第七音の進行すべき位置に解決和絃の低音を存するものなるを以てこの場合に於ては第七音は二度上行するか(a圖)或は四度下行すること(b圖)を要するなり



3. 七の和絃に繼出せる和絃に於て七の和絃中の音を數多含存するときは第七音の解決をなさずして可なり





## 第十四章 九の屬和絃

三四、九の屬和絃に二あり一は七の屬和絃に長第三度を添加せるものにして一は同じく七の屬和絃に短第三度を添加せるものなり前者を時に長九の和絃といひ後者を短九の和絃といふ其轉回の形には各四種ありて其解決は第九音が二度下行するの外主要音たる三音及び七

音は全く七の和絃の場合に等し之れ第九音の添加は七の屬和絃の結果を強大にし且つ變化を與ふる補助的のものに過ぎずして和絃の要素に非らざるを以てなり然れども根音を省略せる長九の和絃の第一轉回は長音階の導音上に於ける七の和絃の形となりて時には七の導音和絃(第十一章參看)と呼ばれ短九の和絃の第一轉回は短音階の導音上に於ける七の和絃の形となりて美しき和絃を生じ減七の和絃(第十一章參看)と呼ばれるものなり而して五音は若し九音の下に存するときは其解決は七の和絃と異なり二度上行して解決和絃の三度に進むことを要す之れ即ち連續五度を避けんがためなりとす



### 長九の和絃

(ハの長調)

第一轉回

第二轉回

第三轉回

第四轉回

第四轉回

轉回に於ては根音の五度を省略すること屢なりと雖も通例は根音を省略するものなるを以て上例には總て根音を廢せるものを擧げたり而して第四轉回に在りては先づ始めに低音を解決するを以て最も良とするなり

### 短九の和絃

(イの短調)

第一轉回

第二轉回

第三轉回

第四轉回

第四轉回

三五、九の和絃に三度を添加せる十一、十一の和絃に三度



を添加せる十三の和絃等は其學習稍困難の事に屬し且つ緊要なる和絃にあらざるを以て茲に之を略したり

### 第十五章 反覆進行

三六、旋律若くは和聲の種々の聲音部の進行に於て規則



正しき同形を二回以上反覆再現するときは之を名けて反覆進行といふ反覆進行には眞正のと音調的との二ありて同度にして同音程を有

し精密に順序正しき同一の進行を反覆するものを眞正的反覆進行(a圖)といひ同度にして異なる音程を交ふる同一進行の反覆を音調的反覆進行(b圖)といふ  
三七、反覆進行をなさんがために第十三節aの規則を破り又は導音の特質を損ぜしむることあるも可なるものとす

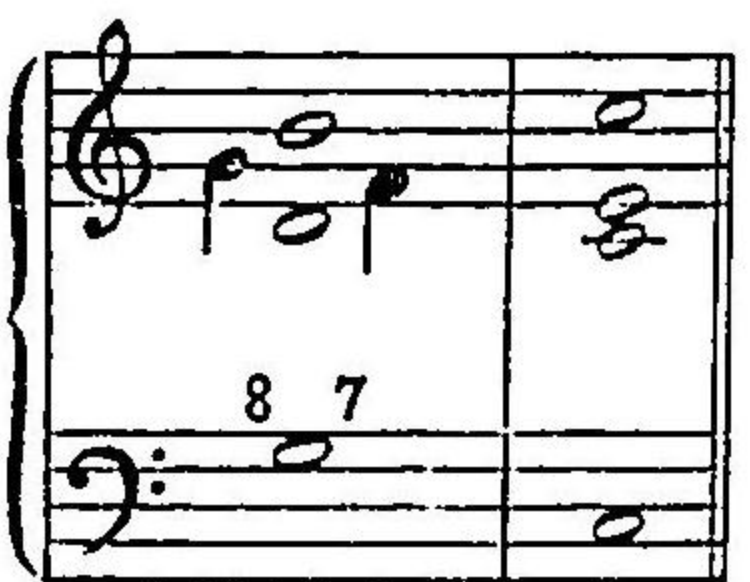
### 第十六章 終止法

三八、終止法は或は結尾と呼ばれ和聲的進行の終局にして吾人に靜止の快感を與ふるものなり之に完全、不完全、半成、變格及び阻碍の五種あり



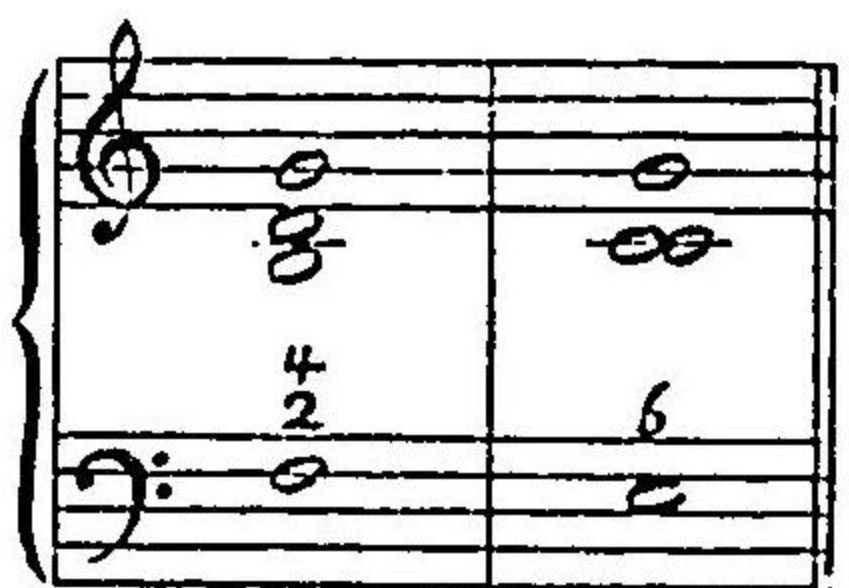
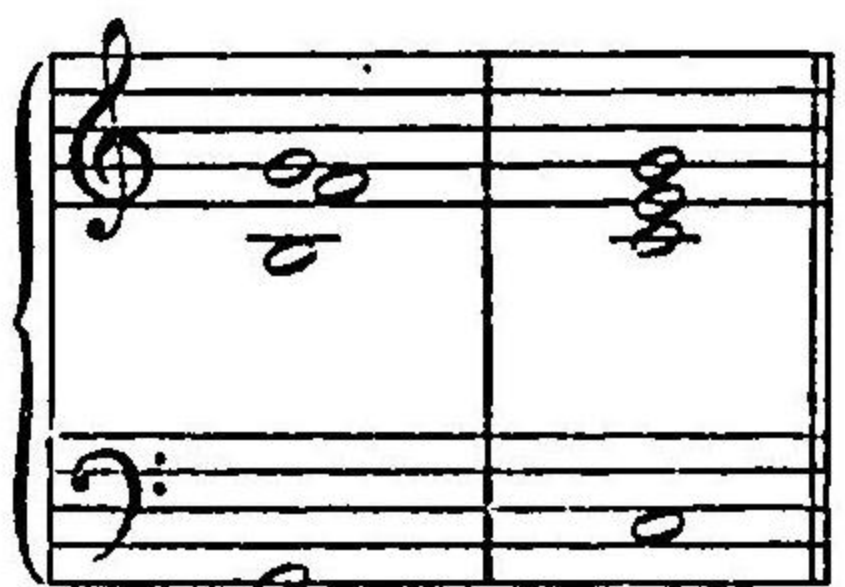
1. 完全終止法とは屬和絃若くは七の屬和絃より主

和絃に進行して解決し且つ其  
解決和絃の高音及び低音に於  
て主和絃を有するものをいふ



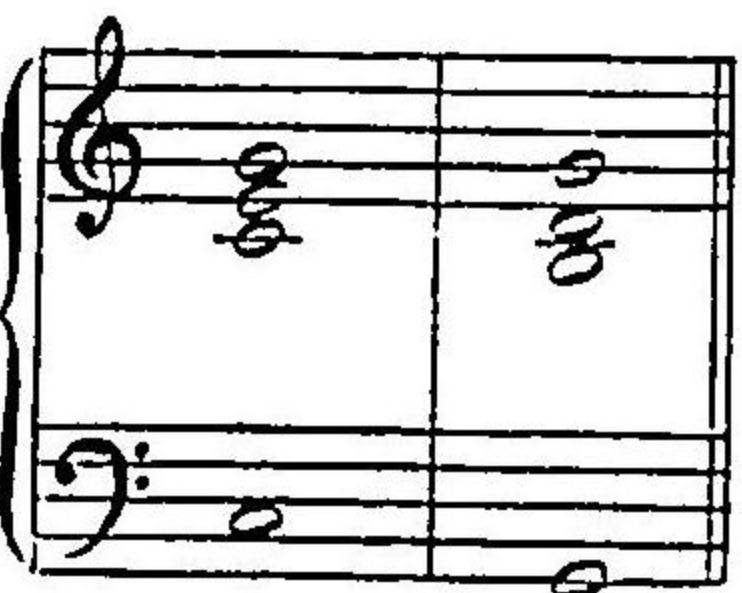
2. 不完全終止法とは完全終止法に同じく屬和絃若

くは七の屬和絃より  
主和絃に解決するも  
のなりと雖も其解決  
和絃の高音に於て主  
和絃以外の音を有す

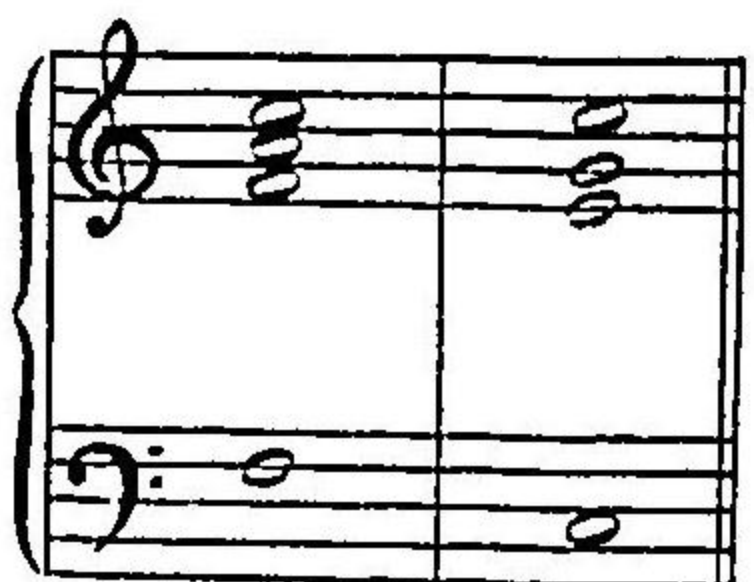


3. 半成終止法とは或る和絃より屬和絃に進行して  
るか或は其低音に於て根音を有せざるものをいふ

終止するものをいふ



4. 變格終止法とは次屬和絃より主和絃に進行して  
終止するものをいふ





5. 阻碍終止法とは屬和絃より進行して主和絃以外に終るをいふものにしてこの終止法は實際は完全終止法を遅延したるものに外ならざるなり故に最終の樂句に於て必ず完全終止を顯出するものとす



例題第八



第二及び第五小節の七の和絃の第七音(ロ)及び(ト)は各其前和絃に於て豫備せられ次の和絃に於て(イ)及び(ヘ)に解決し第五及び第六小節の七の和絃の連續にありては隔次に其第五音を省略せるものなり而して終止法に於ては低音が第七屬和絃より主和絃に進行せるを以て其完全終止なることを知るを得べし



### 第十七章

### 増和絃及びニーポリタン

### 六音の和絃

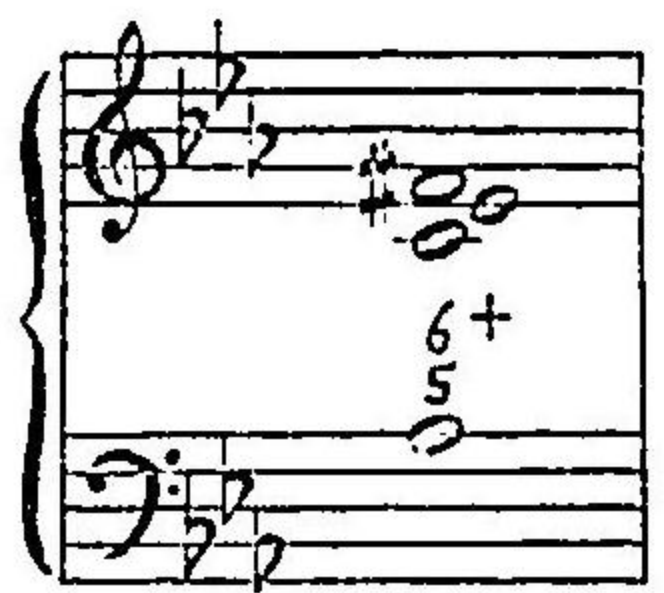
三九、増和絃には増六、増六五、及び増六四三の三種ありて何れも短音階の上屬和絃の上に位し六音は低音の増六度上にあるを以て増和絃の名を得たるなり

1. 増六の和絃は十八世紀以前に伊太利に於て用ゐられたるより之を伊太利的六音の和絃ともいひ短音階の次屬和絃或は長音階の上主和絃に於て構成したる六の和絃にして其根音は半音



階的半音上昇せるものなり 6+ の数字を記して之を示す

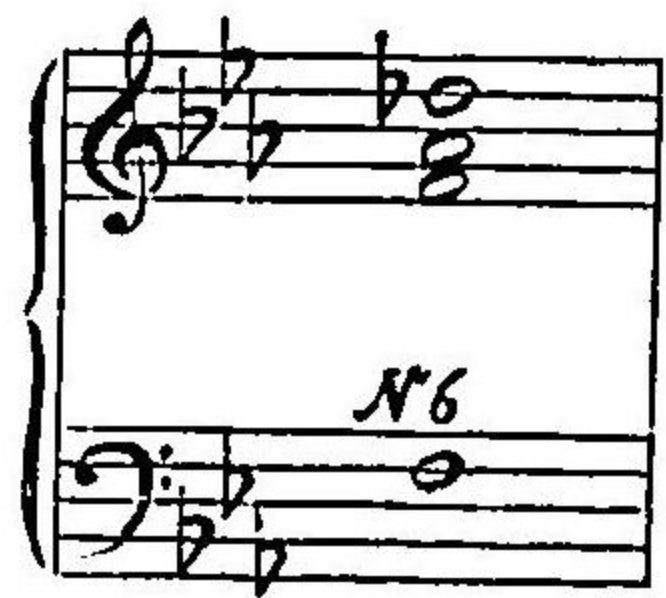
2. 増六五の和絃は之を日耳曼的六音の和絃ともいひ短音階の次屬和絃に於て構成したる六五の和絃にして其根音は半音階的半音上昇せるものなり 6+5 の数字を記して之を示す



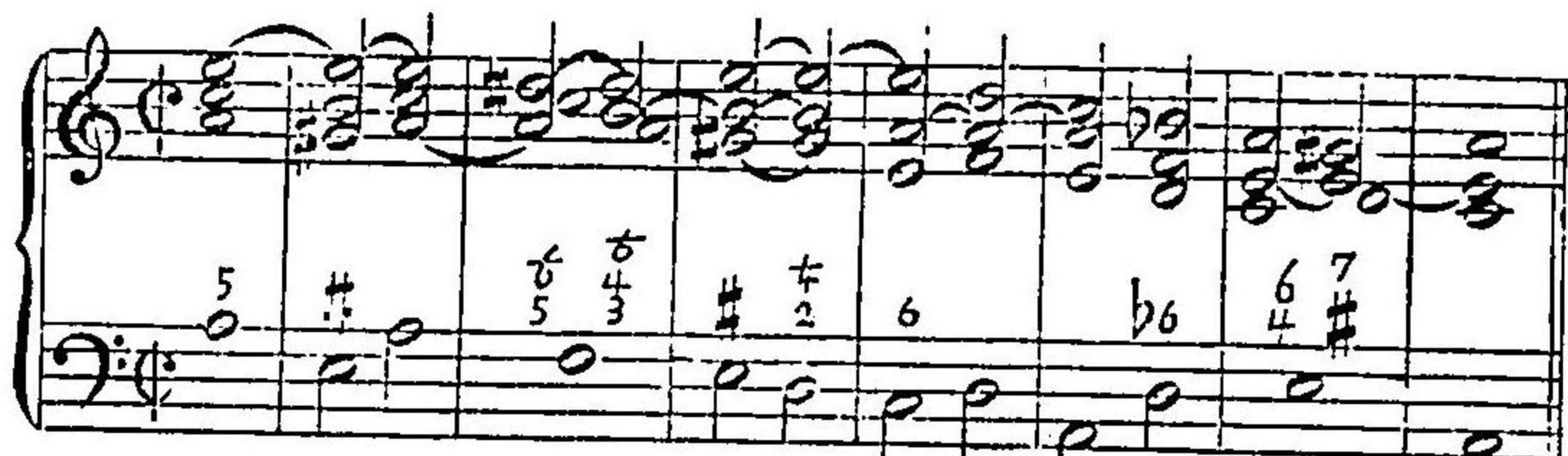
3. 増六四三の和絃は之を佛蘭西的六音の和絃ともいひ短音階の上主和絃に於て構成したる四三の和絃にして其三音は半音階的半音上昇せるものなり 6+43 の数字を記して之を示す



四〇、ニーポリタン六音の和絃は短音階の上主和絃に於て構成したる六の和絃にして其根音は半音階的半音下降せるものなりN6の字を記して之を示す



例題第九



a: I V I # II<sup>o</sup> V V<sup>i</sup> I IV I II<sup>o</sup> I V<sup>i</sup> I  
IV

第三小節の低音(へ)の前半は日耳曼的六音の和絃にして其根音は嬰(ニ)後半は佛蘭西六音の和絃にして第三音は半音上昇せり  
第六小節の六の和絃はニーポリタン六音の和絃にして其根音は變(ロ)なり  
以上三種の和絃中初めの二種即ち日耳曼的及び佛蘭西的(伊太利的六)は屬和絃に進み後の一種即ちニーポリタンは主和絃に進むを以て最も自然なりとす而して其半音階的に變化せる音の高音部にあるときは最も顯著なる結果を得るものなり



練習題第六

1. Bass clef, C major. Notes: C4, E4, G4, A4, B4, C5. Chords: 3, 7, 7#, 6/4, 7#.

2. Bass clef, C major. Notes: C4, E4, G4, A4, B4, C5. Chords: 3, 4/2, 6, 7, 7, 7, 6/4, 7.

3. Bass clef, D major. Notes: D4, F#4, A4, B4, C5, D5. Chords: 6, #, 5, 6/4, #, F#2, 6, 6/4, 7#.

4. Bass clef, D major. Notes: D4, F#4, A4, B4, C5, D5. Chords: 6, #, F#2, 6, #, 6/4, 6, 6/4, 7#.

5. Bass clef, D major. Notes: D4, F#4, A4, B4, C5, D5. Chords: 5, 4, 7, 6, 7, 4, 7, 6/4, 7#.

第十八章 轉調

四一、樂曲が或る調より或る他の調に轉移することを名けて轉調といひ轉調は樂曲に變化と抑揚とを與へむがために之を行ふものなり

四二、轉調には關係調的轉調と格外轉調との二種ありて前者は其名の如く其調の關係調に轉移するものをいひ後者は其他の何れの調へも行はるべきものをいふなり而して關係調とは長調にありては其屬和絃、次屬和絃、之等の關係短調及び自己の調の關係短調并に其調の短調にして短調にありては其屬和絃、次屬和絃、之等の關係長



調及び自己の調の關係長調并に其調の長調なり例之ば  
(ハ)の長調の關係調は

(ト)の長調 (ハ)の屬和絃 (ヘ)の長調 (ハ)の次屬和絃

(ホ)の短調 屬和絃の關係短調 (ニ)の短調 次屬和絃の關係短調

(イ)の短調 自己即ち(ハ)長調の關係短調 (ハ)の短調 其調即ち(ハ)長調

の六種にして(イ)の短調の關係調は

(ホ)の短調 (イ)の屬和絃 (ニ)の短調 (イ)の次屬和絃

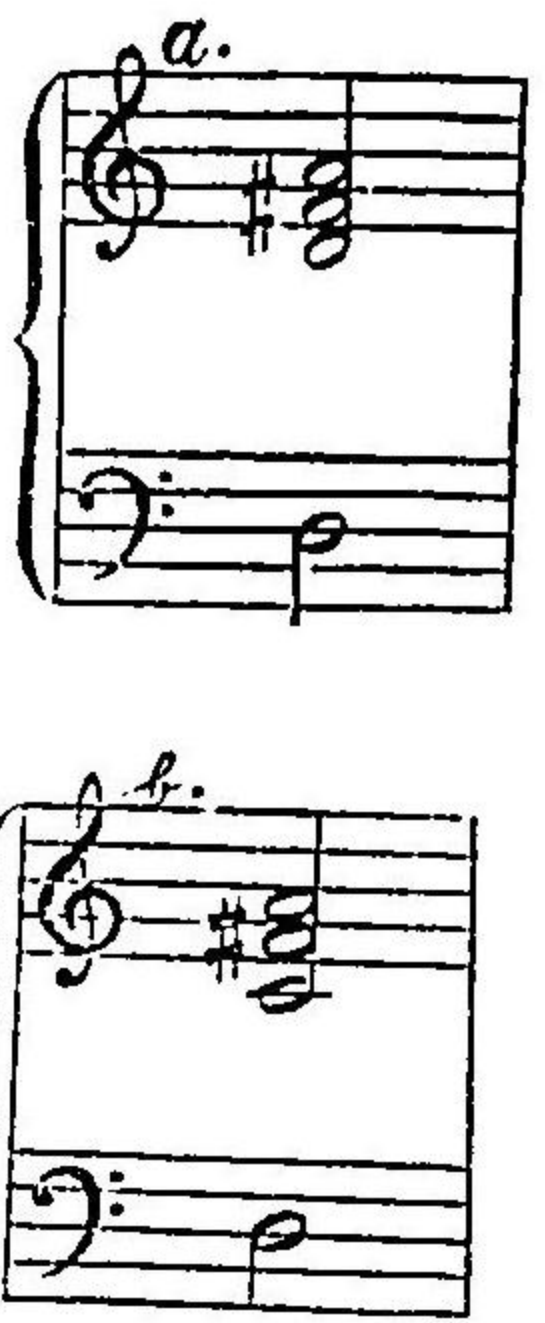
(ト)の長調 屬和絃の關係長調 (ヘ)の長調 次屬和絃の關係長調

(ハ)の長調 自己即ち(イ)短調の關係長調 (イ)の長調 其調即ち(イ)短調

の六種なるが如し

四三、關係調に轉調するには先づ新調に特有にして舊調

に存せざる一音を含める和絃を顯はし之に次ぐに新調を定むるに足るべき一和絃を加ふること必要なり何となれば次圖 a に於けるイ#へニの如く一和絃のみにては(ト)の長、短兩調の屬和絃に屬し或は(ニ)の長調の主和絃(イ



の長調の次屬和絃若くは嬰(ヘ)の短調の次中和絃にも屬し未だ何れの一調に屬するものたることを定むること能はざればなり然るにりの如く(ハ)音を加へて(ニ)の七の和絃となすときは茲に著しく繼て來るべき調を制限し其(ト)調に接近せるを見るに至るべしざれどこれのみにても未だ全く一調の專屬にあらず

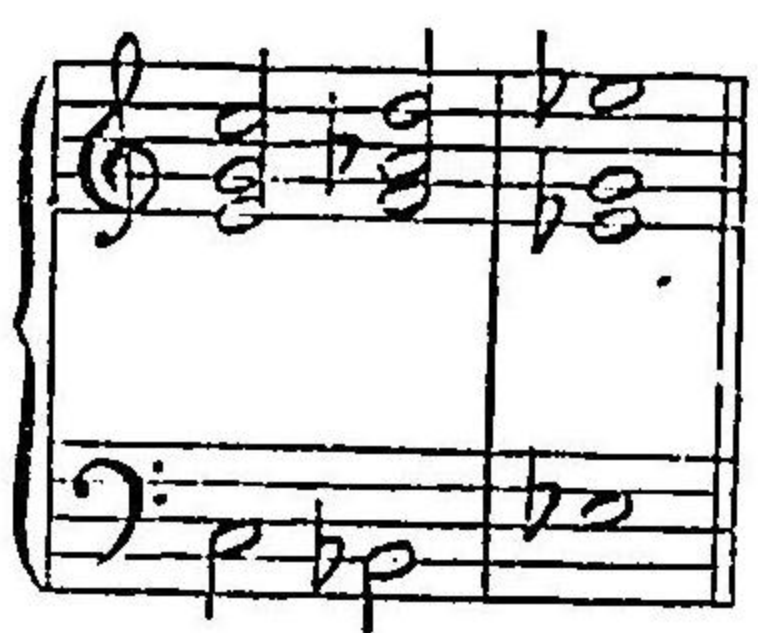




C: I G: V<sub>7</sub> I

してこの和絃は(ト)の長短兩調の七の屬和絃に共通せるものなり故に更に一の和絃を繼出せしむるにあらざれば或る一調に轉移せることを決定すること能はざるなり之を以て轉調の決定には少くとも二以上の和絃を要するものたることを知るべし

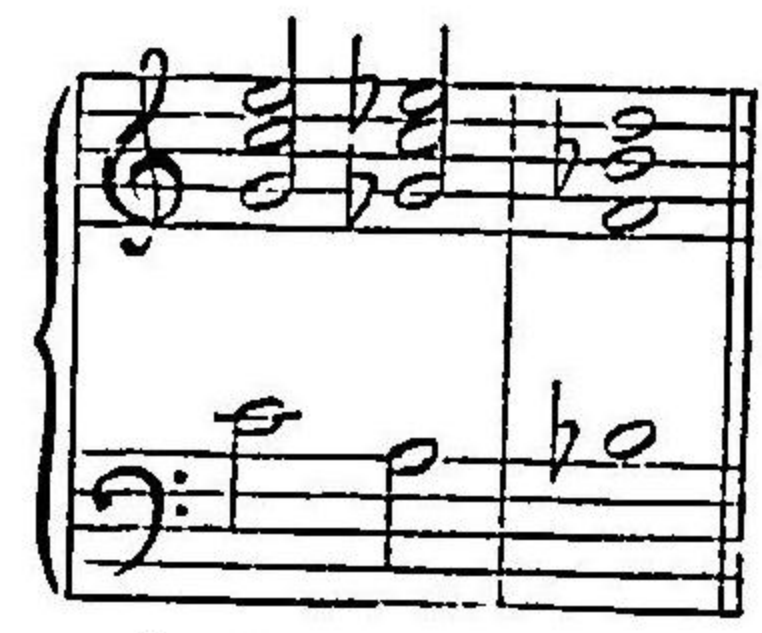
四四、格外轉調の一例を示さば次の如し



C: I Es: V<sub>7</sub> I

七の屬和絃により(ハ)調長音階より變(ホ)調長音階に轉調したるものなり

四五、前二節に示したるは七の屬和絃に依り轉調せしものにして何れも吾人の聽覺に其轉調を確定せしむるに足るものなり斯くの如き轉調を稱して確定的轉調といふ然るに轉調には急激に起り一時的にして新調に移るや直に之を脱し去るものあり斯くの如きものを稱して經過的轉調といふ

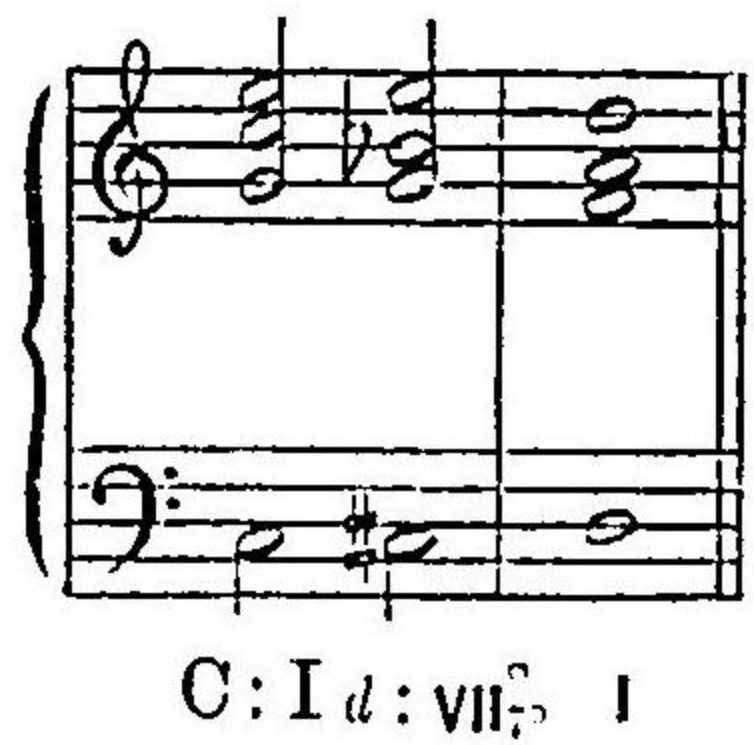


C: I b: VII<sub>7</sub> B: I

第一小節の第一の和絃は(ハ)調長音階にして第二の和絃に於て變(ロ)調短音階の導音上の減七の和絃となり第二小節に至り變(ロ)調長音階の主音の普通和絃となれるなり



四六、七の屬和絃と共に轉調の主要なる方法として用ゐらるゝものは減七の和絃なり



減七の和絃によりて(ハ)調長音階より(ニ)調短音階に轉じたるものなり

四七、轉調は上に示したる外増六の和絃等に依りても尙之を行ふことを得るものとす

例題第一〇



上例は經過的に轉調せるもの、一にして(ハ)の長調に始まり第二小節の第一の和絃に於て(ト)の長調の七の屬和絃となり第二に其主和絃に解決す而して第三小節の第一は(ハ)の長調の次中和絃第二は七の屬和絃にして第四小節の第一は其主和絃なり次に至り(ニ)の短調の導音の減七の和絃となり第五小節の第一に於て其主和絃に解決す而して其第二の和絃に於て再び(ハ)の長調の主和絃に歸り上主和絃及び屬和絃を経て最後に主和絃となり其終を告ぐるものなり



練習題第七

1.  $\frac{6}{5}$  7  $\frac{4}{2}$  6  $\frac{6}{5}$  6 7

2. 3  $\frac{6}{5}$   $\frac{b7}{5}$  6 2 6  $\frac{4}{3}$  6 6 7

3.  $\frac{6}{5}$  6  $\frac{4}{5}$  4 2

4. 6  $\frac{b7}{3}$   $\frac{6}{5}$  6 6  $\frac{6}{4}$   $\frac{7}{\#}$

5.  $\frac{6}{5}$  6  $\frac{6}{4}$  7

第十九章 繫留音及び忘音

四八、和絃の一或は數多の音が次に續く和絃の中に含まれざるに關はらず其進行を猶豫して之を次の和絃に保持するときは茲に解決を要すべき不協和音を生ず而して其解決のために下方に進行を要するものなるときは其保持せられたる音を稱して繫留音といふ

四九、繫留音は和絃の連合に於て一層の興味ある變化を與ふるものにして其特性は顯はれたる和聲に逆ひて不



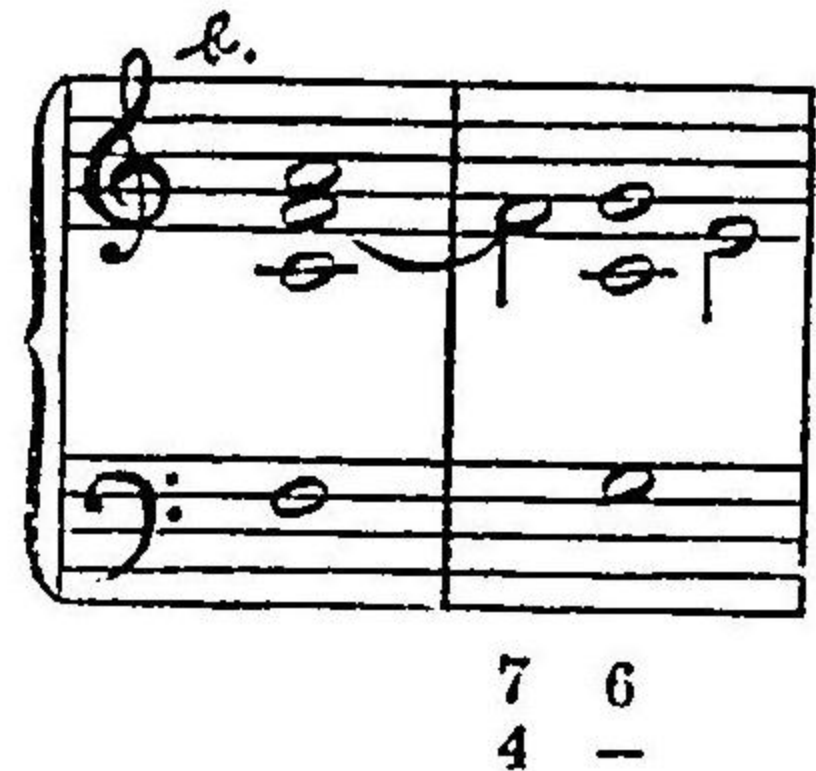
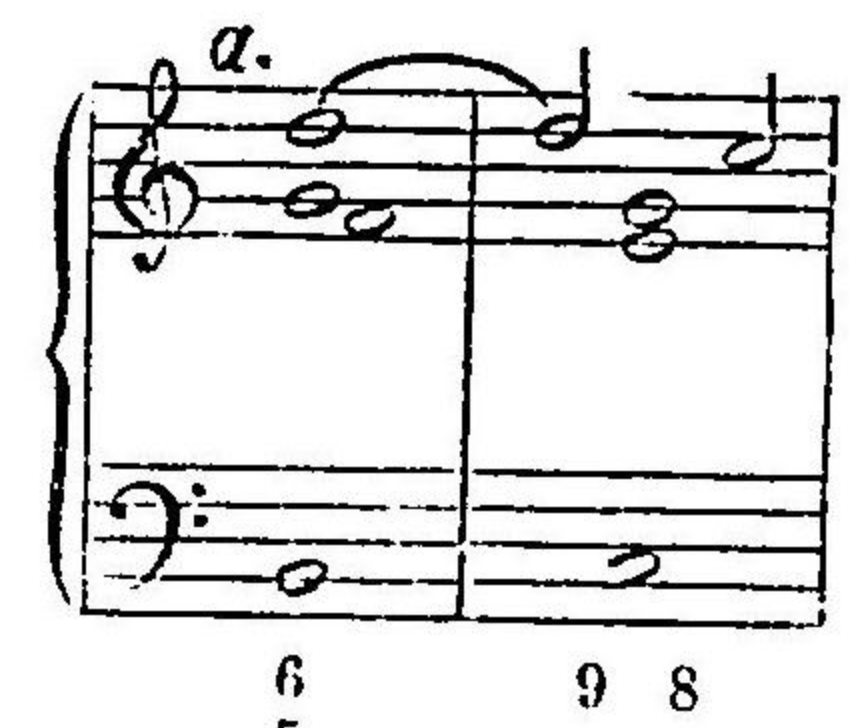
協和音を形成しその解決のために二つの和絃に於て一層親密にして且つ必要なる關係を生ぜしむるにあるなり而して繋留法は左の三要件に依りて成るものとす

- 一、豫備 前和絃に於て豫め顯出せらるゝこと
- 二、繋留 和聲に逆ひ不協和音を形成すること
- 三、解決 下行進行に依りて協和音を形成すること

注意 前第四十八節の例に於ける第一小節の高音の(ハ)は豫備にして第二小節の高音の(ハ)は繋留高音の(ロ)は解決なり

五〇、繋留音は横列に記したる一行、二行或は三行の數字によりて之を示すものなり

ハに於けるリ及びSの横列は低音の第九音たる(ニ)を繋留し



る(ハ)は同位置に止るべきを示す

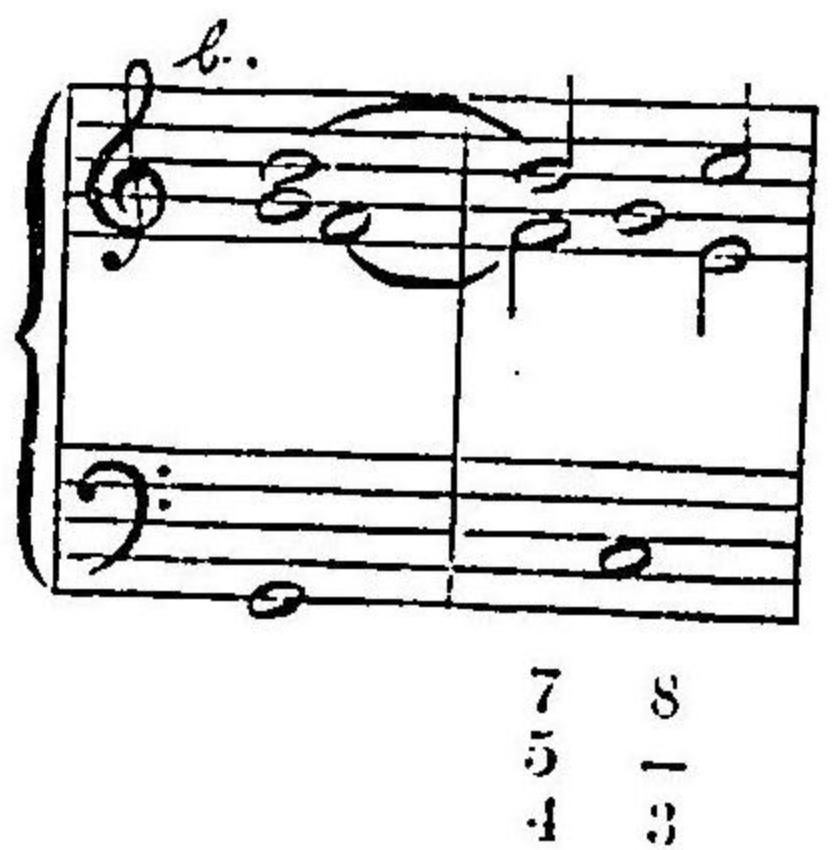
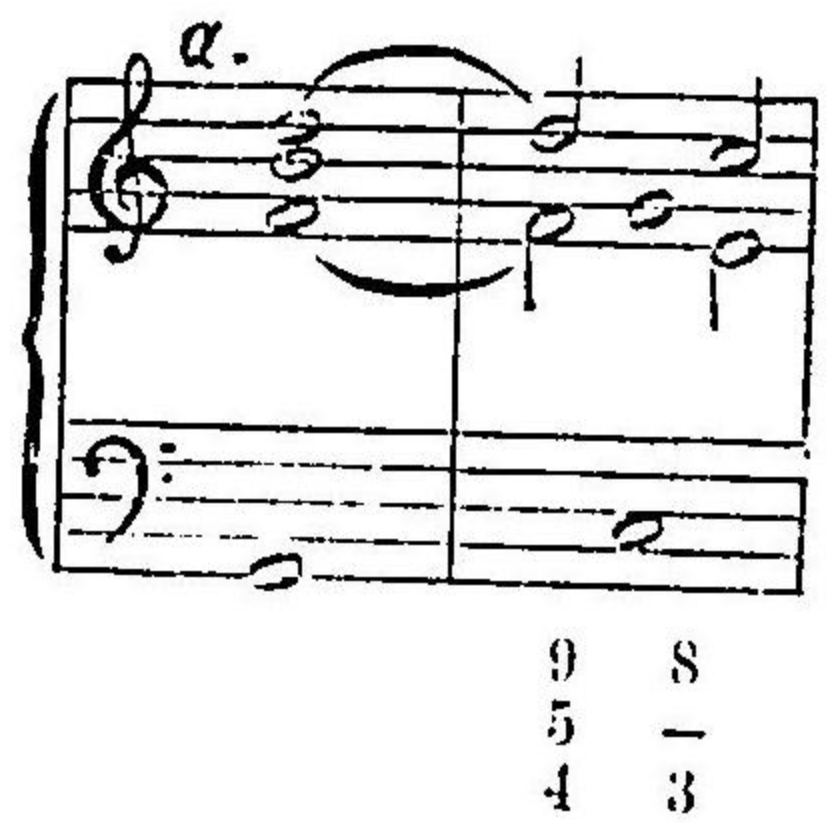
て八音(ハ)に解決せしむべきを示す但し6 5は七の屬和絃の第一轉回を示すものにして繋留音に關係なきものとすハは低音の第七音たる(ヘ)を繋留して六音(ホ)に解決せしめ四音た

五一、怠音は主和絃が繋留せられて導音に遲怠し後ち二度の上行によりて解決すべき場合に生ずるものにして其繋留音と異なる所は解決の上行するにあるものなり





五二、 繫留音には二重繫留と稱し二聲音部に之を生ぜしむるものあり(a圖)或は一聲音部を繫留し他の一聲音部を遅忘せしむるもの(b圖)あるものなり

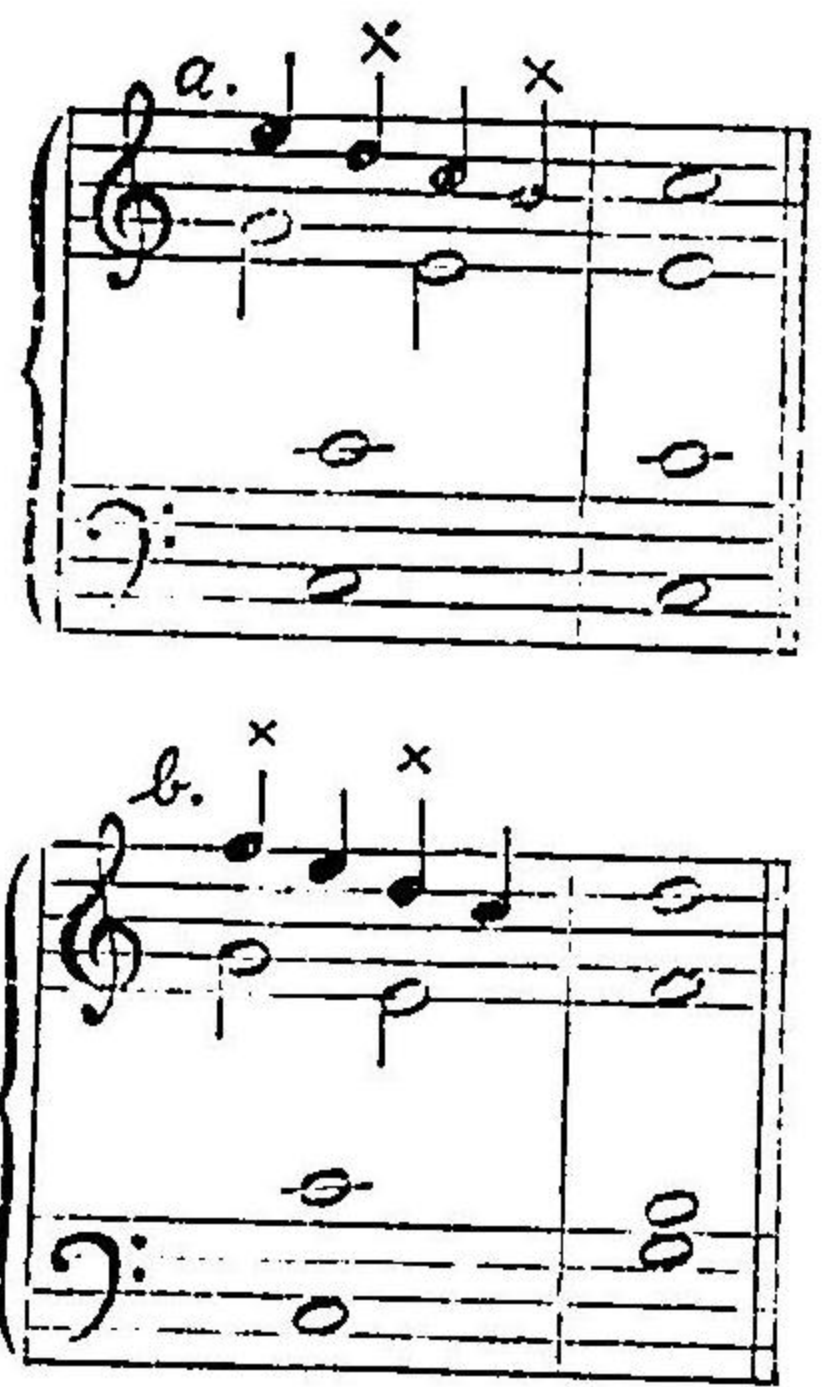


第二十章 經過音及び補助音

五三、 經過音及び補助音は共に旋律に於ける一種の粧飾

にして和絃に關係なき不協和音なり

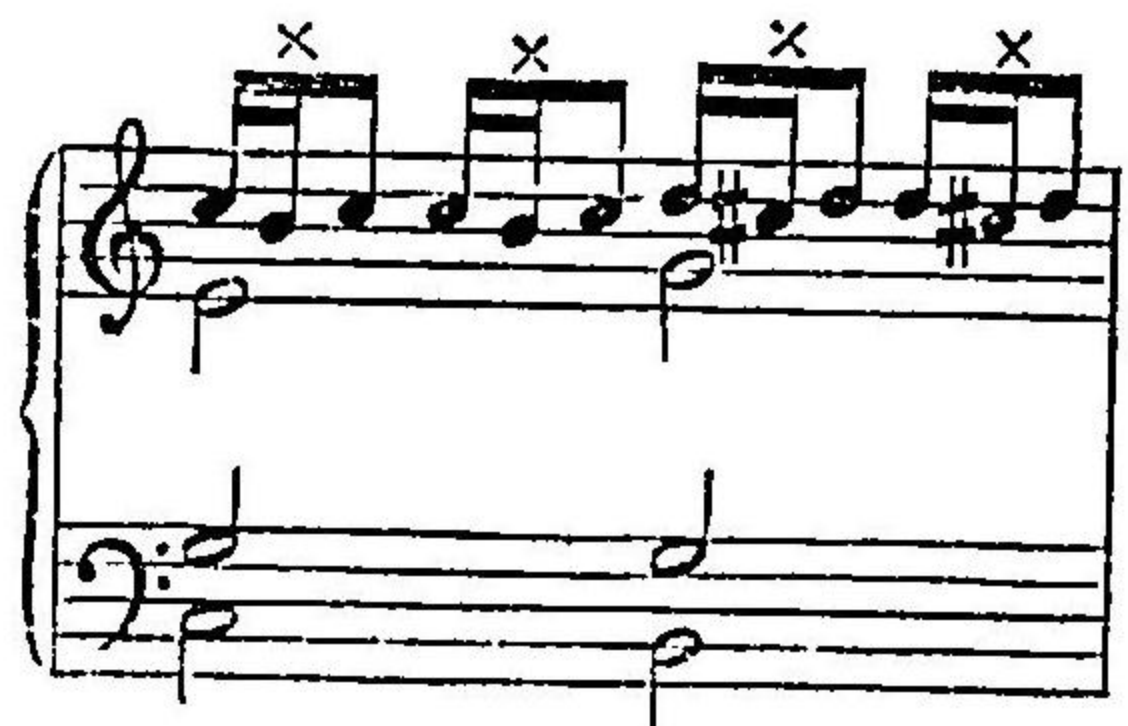
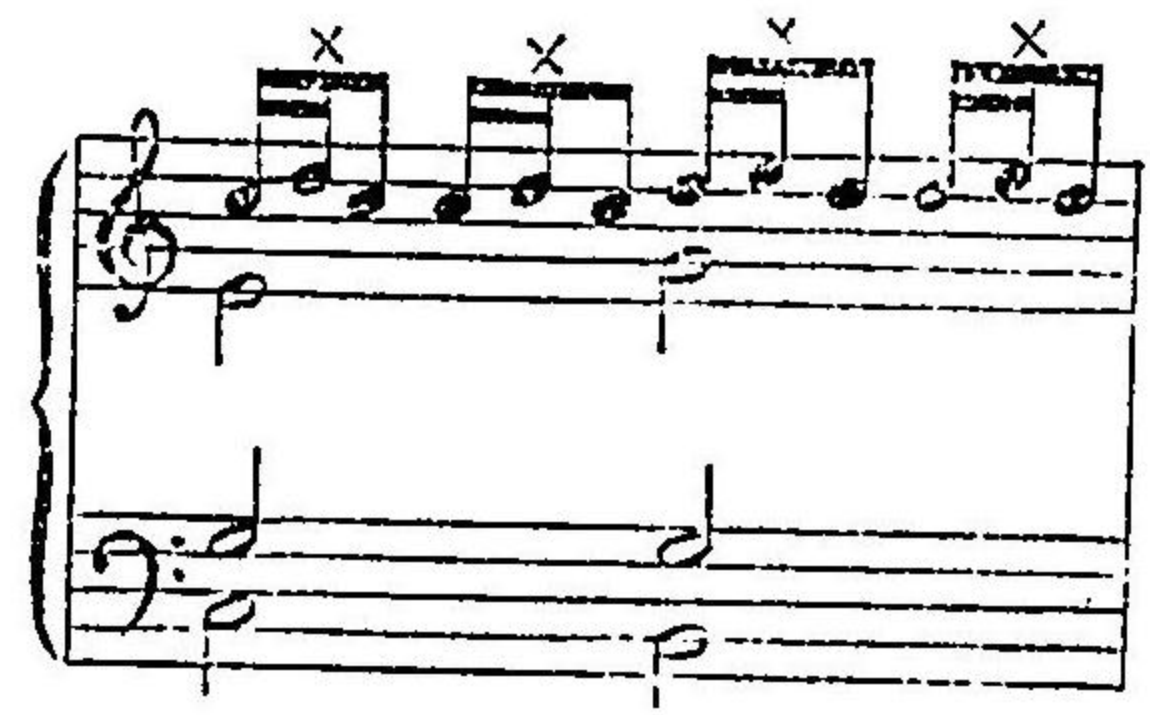
五四、 經過音は二音の連鎖となりて其間を充實するものにして和聲の或音より或る他の音に向て全音階的に進行し始めの音に復歸せざるものなり而してこの音は通常小節の弱聲部に存するものにして其強聲部に存するものを變過音(b圖)といふ



ものを變過音(b圖)といふ

五五、 補助音は或は弱聲部に於ける變過音とも稱し和聲の音の二度上或は下に進み復び其發したる音に歸るものをいふなり





第二十一章 重複八音

五六、樂曲の或一樂句若くは一中節に於て二以上の音が八度の間隔に依りて連續進行するときは之を重複八音と稱し他の何れの部分にも連續五度を生ぜざるときは

斯る進行をなすことを得るものなり重複八音は主に器

樂に於て屢用あらるゝものとす

此の進行は可なりと雖も此の進行にありては中音と次中音及び次中音と低音とに於て連續五度を生ぜるを以て不可なりとす

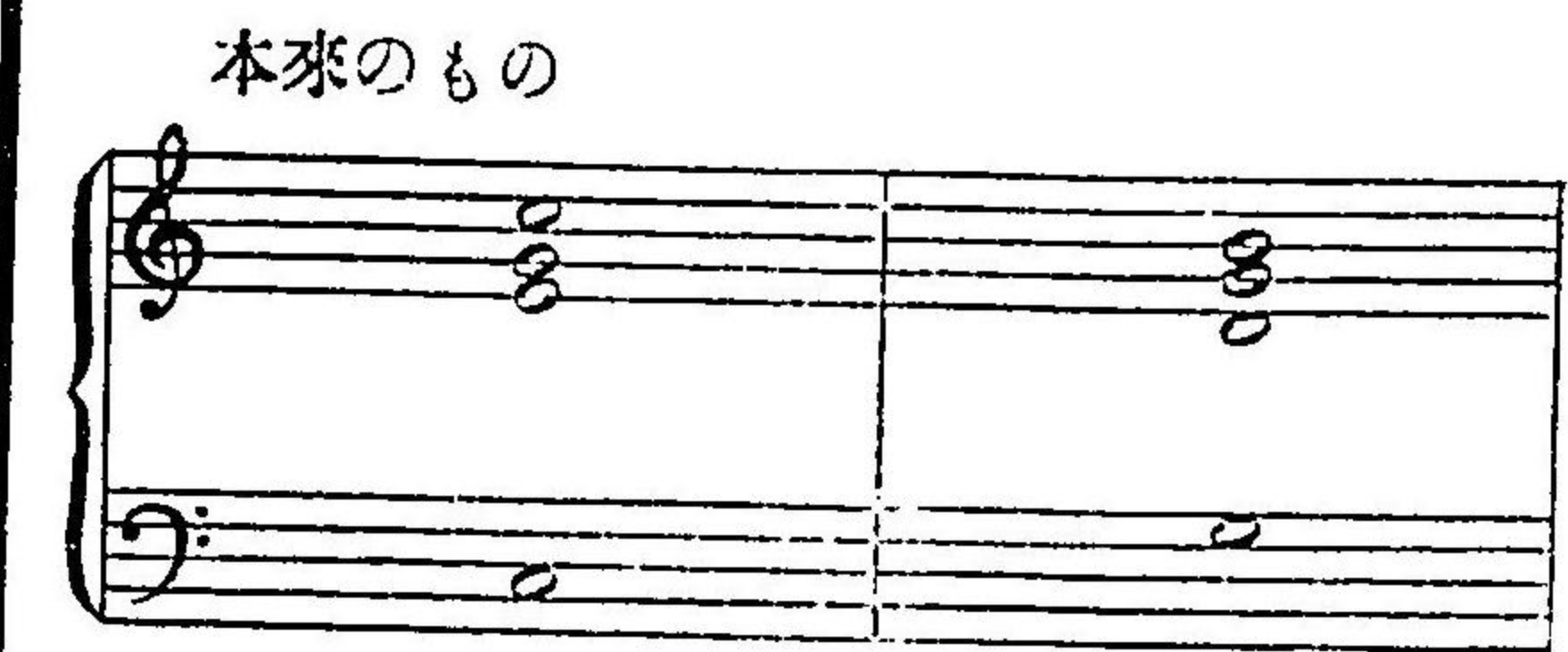


附言 ベートーフェン氏の著作第十七の(ハ)調の「ソナタ」の第一進動に於て連續五度を有する異例ありされど是は初學者の學ぶべき所にあらず

第二十一章 重複八音



第二十二章 和絃の分割



五七、和絃の分割とは和絃を構成せる諸音を分割して繼續的に之を奏し然も其諸音を同時に奏したるが

如き調和の感を與ふるをいふ而して和絃を分割するに當りては之が爲めに和聲の定まれる進行及び和絃の解決を妨げ或は連續五度、八度を生ぜしむることなきを要するものなり和絃の分割は多く旋律の伴奏に用ゐらるものとす

第二十三章 低止音及び不動音

五八、低音に於て或る同一の音を長く保持し上部の諸聲音はこの低音に關することなく其和聲的進行を繼續するときはこの低音を稱して低止音(圖)といひ低止音の如く長く保たれたる音が低音以外にあるときは之を稱





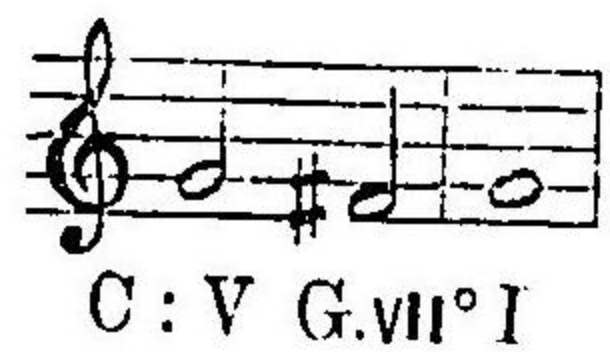
して不動音若くは轉回低止音(圖)といふ  
 五九、低止音及び不動音は屬和絃若くは主和絃たるを可  
 とし時には兩者を混用することあるものとす

第二十四章 旋律の調和

六〇、旋律の調和は和聲に於て最も緊要の事に屬すと雖  
 も之に關し劃然たる法則なきを以て學習上最も困難を  
 感ずる所のものなり故に學習者は上述の總ての理論と  
 左に掲ぐる諳示とを會得し以て實際に多くの旋律を調  
 和し之に習熟通曉することを勉むべし但し諳示は主と  
 してロッシニの說に基くものとす



1. 旋律に於て嬰若くは變の顯はれたるは多く(半階に  
 ゐらるゝ事あり) 轉調を示すものにして嬰は新調の  
 主音に上るべき導音たるべく變は新調の第三度に  
 下るべき次屬和絃たるべきものなり



2. 旋律に於て屬和絃の五音を存するときは低音と  
 して根音の第三音を用ゐて6 5の如く調和し三音  
 を存するときは低音として根音の第七音を用ゐて

6 4 2の如く調和すべしこれ其最も可なるものと  
 す而して後の場合に於て若し6 4 2の如く調和し  
 能はざるときは基礎低音を採用すべし



最良



最良

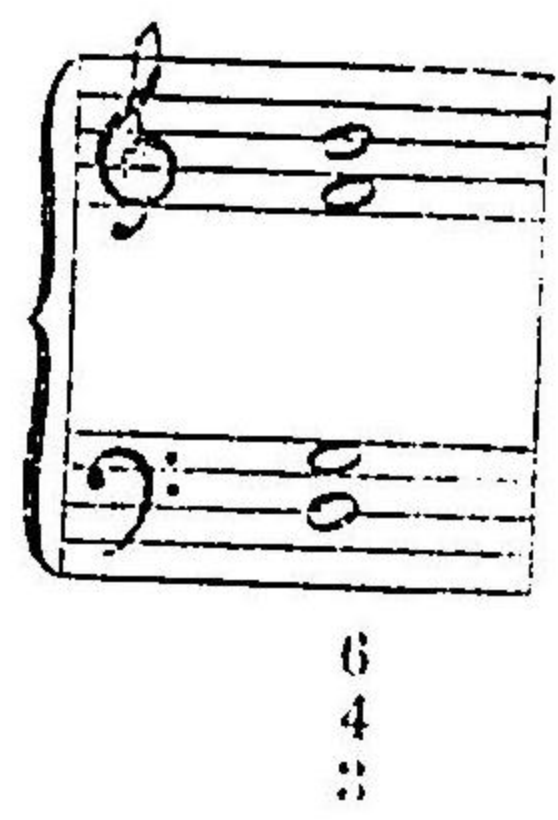


可

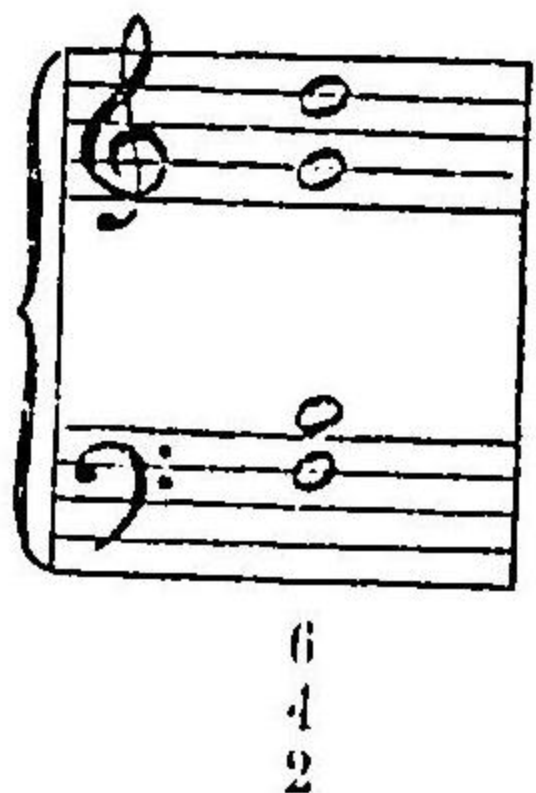
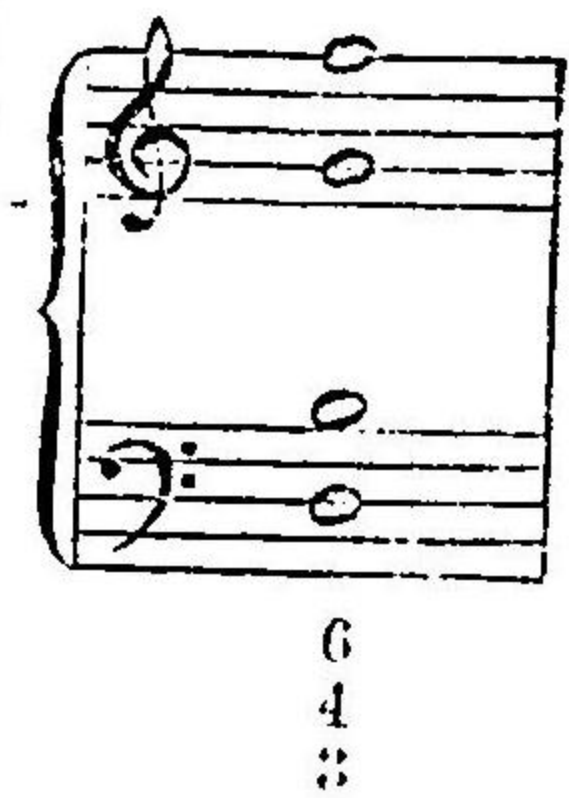
3. 前項の法則は旋律と低音との位置を轉倒するこ  
 とを得るものにして旋律に於て三音を存するとき  
 は低音として根音の第五音を用ゐて6 4 3の如く  
 調和し第七音或は基礎音を存するときは低音とし  
 て根音の第三音を用ゐて6 5の如く調和すること



を得るものなり



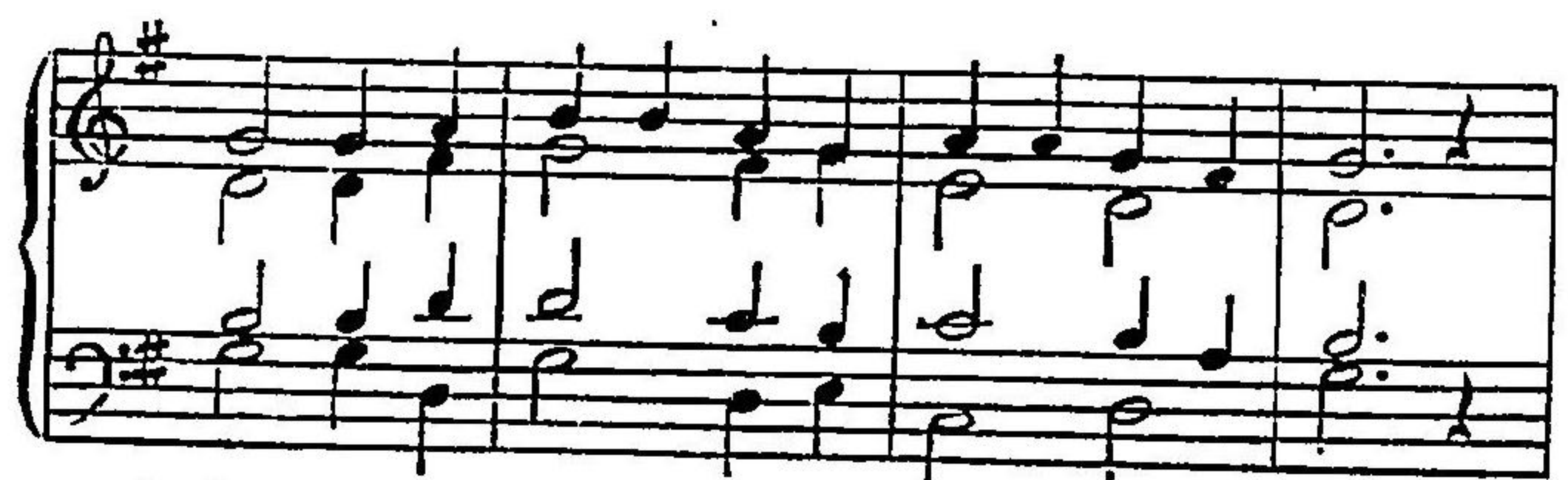
4. 旋律に於て七の和絃の七音を存するときは低音として根音の第五音を用ゐて6 4 3の如く調和し五音を存するときは低音として根音の第七音を用ゐて6 4 2の如く調和することを得



5. 中和絃及び導音上の三和音は稀れにして上主和絃及び次中和絃上のものは屢用ゐられ主和絃次屬和絃及び屬和絃上のものは最も多く顯出せらるゝものなり

6. 諸聲音部の進行に就ては高音は最も自由なるべく中音と次中音とは平靜にして跳越すること少なく低音は跳越すること最も多きを要するものなり





G:I V I V<sup>7</sup> VI <sup>||</sup>6 I<sup>#</sup> V I

例題第一

(與へられたる旋律に下三聲音部を加へし例)

第二小節の七の屬和絃に於て低音が上屬和絃に解決したるは阻碍終止(第三十八節)をなせるものにして之れ即ち第四小節に於て完全終止(第三十八節)を行はんがために暫時の遅延を與へたるに外ならざるなり  
第四小節に於て第七の屬和絃を用ゐざりしは樂曲の最終結尾に非らざるを以て稍輕き終止たらしめんがためなり

初等  
和聲學終

注意

旋律の調和に關する練習題の掲記を省略せり开は世に公刊せられたる多くの歌曲中より採擇し以て之に充つることを得べければなり



# 附 録

## 樂 語 索 引

樂  
語  
索  
引

### い

|        |                                 |
|--------|---------------------------------|
| 隠伏八音   | Hidden octave 或は Covered octave |
| 隠伏五音   | — fifth                         |
| 伊太利的六音 | Italian sixth                   |

### は

|      |                        |
|------|------------------------|
| 半音   | Semi tone 或は Half tone |
| 半音階  | Chromatic scale        |
| 反行進行 | Contrary motion        |
| 破格進行 | Exceptional motion     |
| 反覆進行 | Sequence               |
| 半終止法 | Half cadence           |
| 伴奏   | Accompaniment          |

### に

|          |                   |
|----------|-------------------|
| ニーポリタン六音 | Neapolitan sixth  |
| 二重繫留     | Double suspension |

### ほ

|      |               |
|------|---------------|
| 本位記號 | Natural       |
| 補助調  | Auxiliary key |



|       |                        |
|-------|------------------------|
| 下行    | Descension             |
| 開離和聲  | Open harmony           |
| 解決    | Resolution             |
| 樂句    | Passage                |
| 格外轉調  | Extraneous modulation  |
| 確定的轉調 | Decided modulation     |
|       | よ                      |
| 豫備    | Preparation            |
|       | た                      |
| 第一度   | Unison 或は Prime        |
| 第二度   | Second                 |
| 第三度   | Third                  |
| 第四度   | Fourth                 |
| 第五度   | Fifth                  |
| 第六度   | Sixth                  |
| 第七度   | Seventh                |
| 第八度   | Octave                 |
| 第九度   | Ninth                  |
| 第十度   | Tenth                  |
| 第十五度  | Fifteenth              |
| 第十六度  | Sixteenth              |
| 短     | Minor                  |
| 導音    | Leading note 或は — tone |
| 怠音    | Retardation            |

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 補助音    | Auxiliary note              |
| 本然的    | Natural                     |
|        | へ                           |
| 並行進行   | Parallel motion             |
| 變      | Flat                        |
| 變格終止法  | Plagal cadence              |
| 變過音    | Changing note               |
|        | ち                           |
| 長      | Major                       |
| 中和絃    | Mediant                     |
| 中音部    | Alto part                   |
| 中聲     | Middle voice                |
| 日耳曼的六音 | German sixth                |
| 長調     | Major key                   |
| 重複八音   | Doubled octave              |
| 中節     | Phrase                      |
|        | り                           |
| 臨時記號   | Accidental notation         |
|        | か                           |
| 高度     | Pitch                       |
| 高音部    | Sopraos part 或は Treble part |



|       |                     |
|-------|---------------------|
| 和聲學   | Harmony             |
| 完全    | Perfect             |
| 和聲的   | Harmonic            |
| 和絃    | Chord               |
| 關係調   | Related key         |
| 外聲    | Outer voice         |
| 關係的轉調 | Relative modulation |
| 和絃の分割 | Broken chord        |

け

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 減     | Diminished           |
| 協和音程  | Consonant interval   |
| 協和絃   | Concord              |
| 結尾    | Close                |
| 經過的轉調 | Transient modulation |
| 繫留音   | Suspension           |
| 經過音   | Passing note         |

ふ

|        |                    |
|--------|--------------------|
| 不完全    | Imperfect          |
| 不協和音程  | Dissonant interval |
| 不協和絃   | Discord            |
| 普通和絃   | Common chord       |
| 佛蘭西的六音 | French sixth       |
| 不動音    | Stationary note    |

こ

短調

Minor key

れ

|      |                    |
|------|--------------------|
| 連續五度 | Consecutive fifth  |
| 連續八度 | Consecutive octave |
| 連合   | Connection         |

そ

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 増     | Augmented           |
| 屬和絃   | Dominant            |
| 阻碍終止法 | Interrupted cadence |
| ソナタ   | Sonata              |

な

|    |             |
|----|-------------|
| 內聲 | Inside part |
|----|-------------|

る

|    |          |
|----|----------|
| 位置 | Position |
|----|----------|

お

|     |                  |
|-----|------------------|
| 音程  | Interval         |
| 音階  | Scale            |
| 音符  | Note             |
| 音域  | Compass of voice |
| 音調的 | Tonal            |

く



|      |                   |
|------|-------------------|
| 上行   | Ascension         |
| 主和絃  | Tonic             |
| 上主和絃 | Supertonic        |
| 次屬和絃 | Sub-dominant      |
| 上屬和絃 | Super-dominant    |
| 次中和絃 | Sub-mediant       |
| 四聲音部 | Four voices parts |
| 次中音部 | Tenor part        |
| 進行   | Motion            |
| 斜行進行 | Oblique motion    |
| 從屬   | Secondary         |
| 真正的  | Real              |
| 終止法  | Cadence           |
| 衝擊   | Percussion        |
| 進動   | Movement          |
| 弱聲部  | Unaccented part   |

終錄附

|       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| 根音    | Root                            |
|       | え                               |
| 嬰     | Sharp                           |
|       | て                               |
| 低音    | Bass                            |
| 低音部   | Bass part                       |
| 轉回    | Inversion                       |
| 轉調    | Modulation                      |
| 調子記號  | Signature                       |
| 跳越    | Skip                            |
| 低止音   | Organ point 或は Pedal point      |
| 轉回低止音 | Inverted pedal                  |
|       | さ                               |
| 三和音   | Triad                           |
|       | き                               |
| 基礎音   | Fundamental note 或は Ground note |
| 規則    | Rule                            |
| 強聲部   | Accented part                   |
|       | み                               |
| 密集和聲  | Close harmony                   |
|       | し                               |



明治四十一年四月十六日印刷  
明治四十一年四月二十日發行

定價金六拾錢

編者 福井直秋

發行者 東京市京橋區竹川町十三番地  
合資 共益商社樂器店  
右代表者

印刷者 白井直  
東京市京橋區築地三丁目十一番地  
野村宗十郎

發行所 東京市京橋區竹川町十三番地  
合資 共益商社樂器店  
電話新橋五二九  
電話新橋四八八〇

印刷所 東京市京橋區築地二丁目十七番地  
株式東京築地活版製造所

不許複製



明治四十一年四月十六日印刷  
明治四十一年四月二十日發行

定價金六拾錢

編者 福井直秋

發行者 東京市京橋區竹川町十三番地  
合資會社 共益商社樂器店  
右代表者

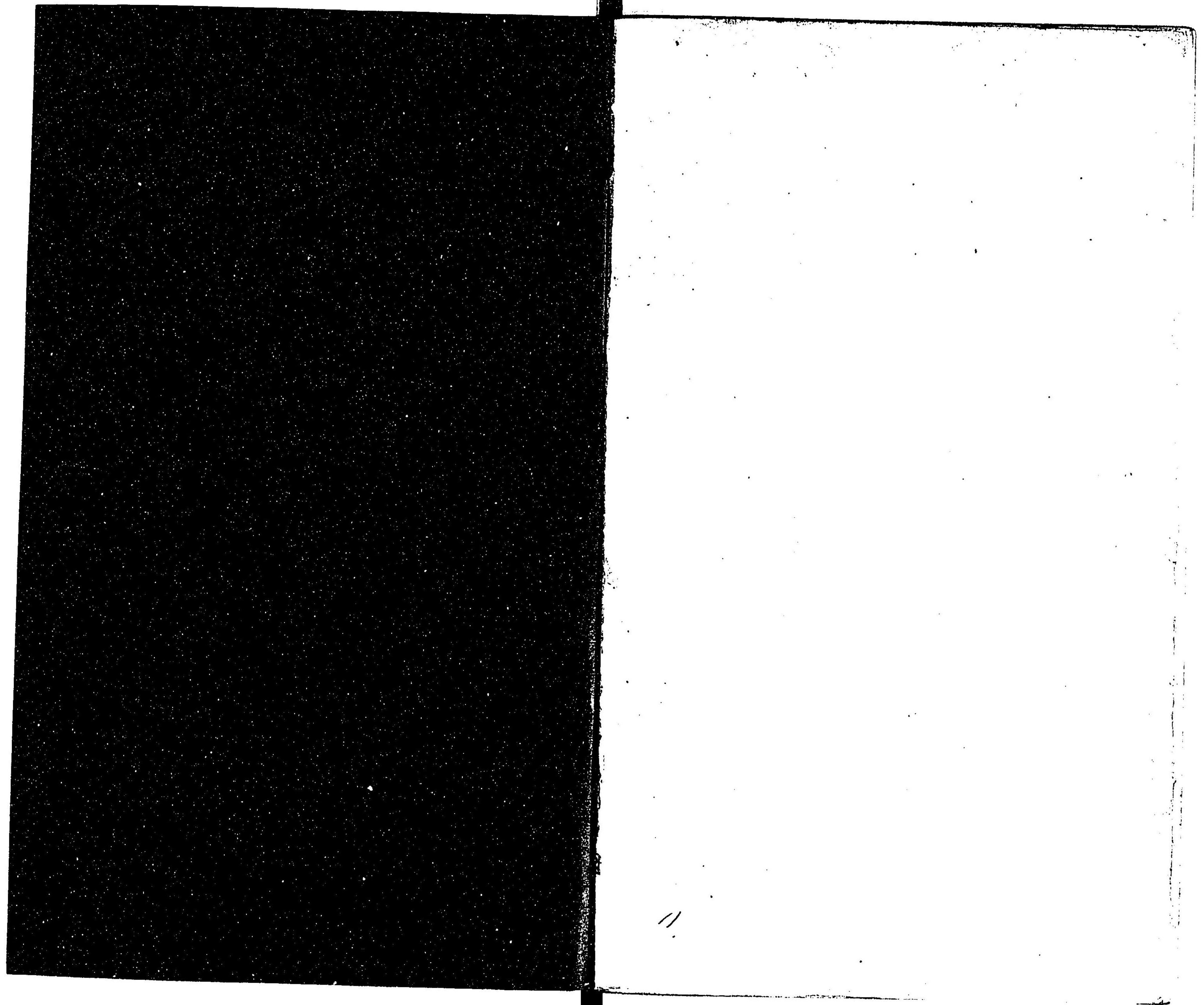
印刷者 白井直  
東京市京橋區築地三丁目十一番地

發行所 野村宗十郎  
東京市京橋區竹川町十三番地  
合資會社 共益商社樂器店  
電話新橋五二九  
電話新橋四八八〇

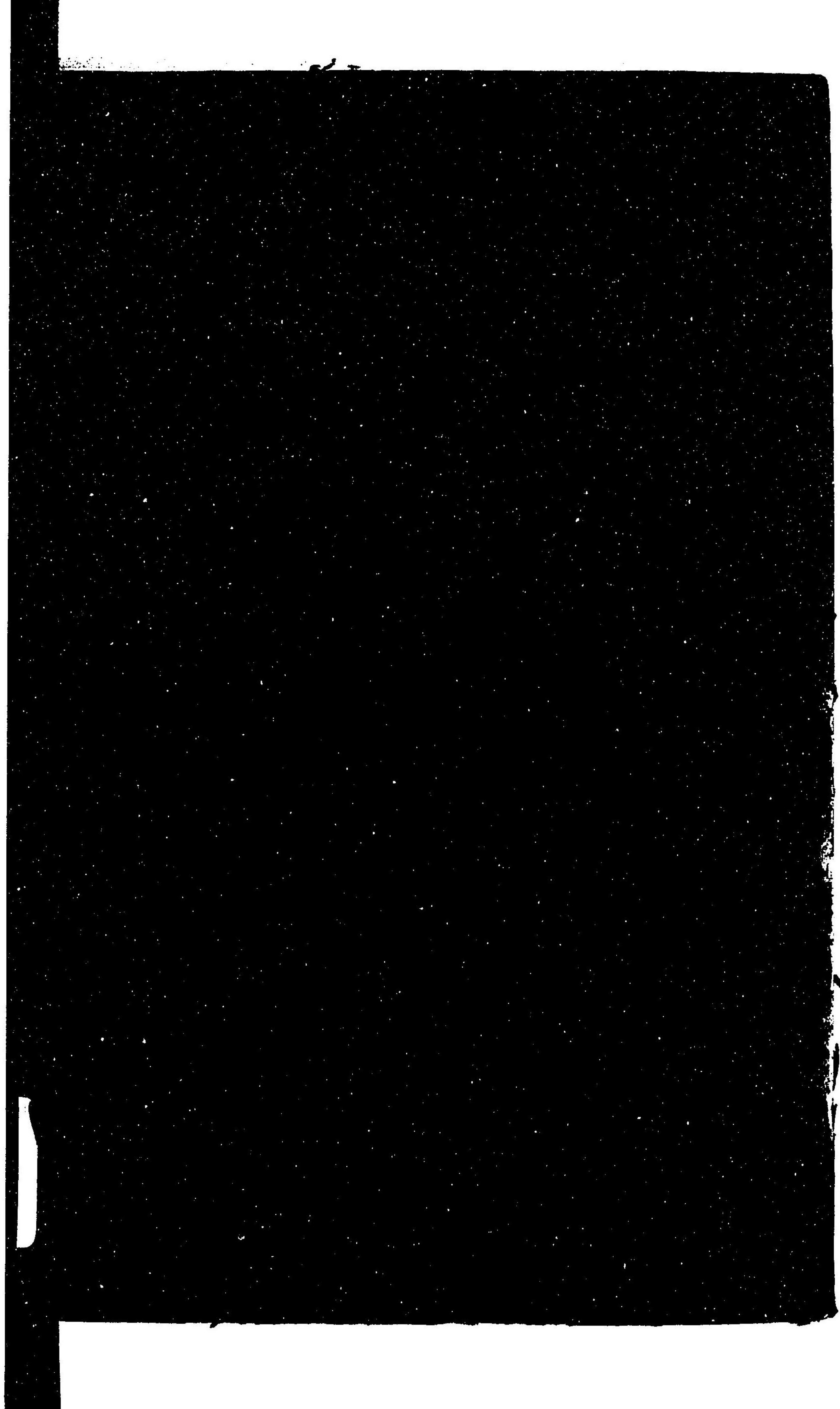
印刷所 東京市京橋區築地二丁目十七番地  
株式會社 東京築地活版製造所

不許複製











18

823

072684-000-2

18-823

初等和声学

福井 直秋/編

M41

CEH-0203

